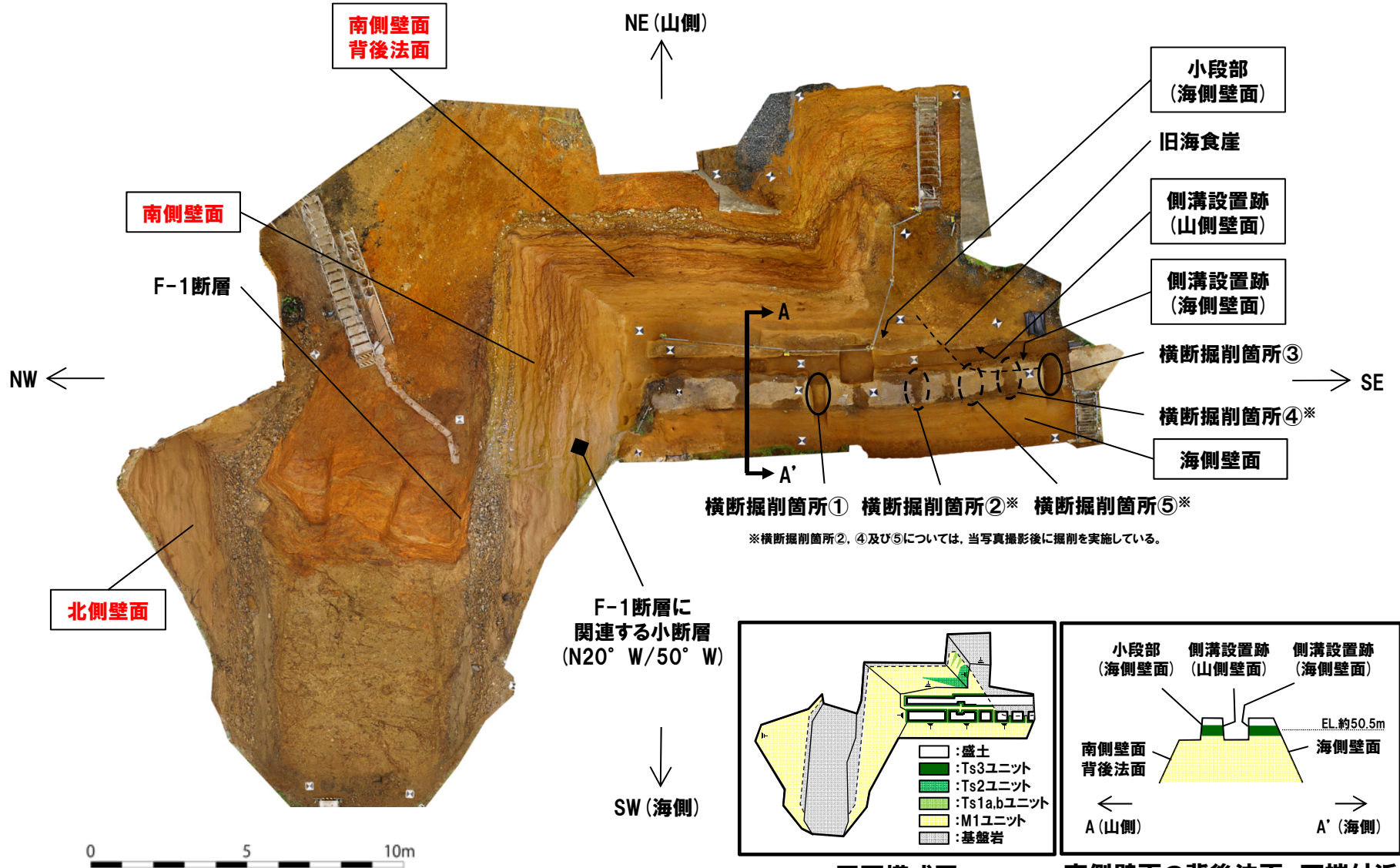


(1)地層区分及びユニット区分

①露頭観察結果(堆積相観察)(2/4)

一部修正(R2/8/7審査会合)



*横断掘削箇所②、④及び⑤については、当写真撮影後に掘削を実施している。

平面模式図

南側壁面の背後法面 天端付近 断面模式図(A-A'断面)

開削調査箇所(南側) 露頭状況

(1)地層区分及びユニット区分

①露頭観察結果(堆積相観察)(3/4)

一部修正(R1/11/7審査会合)

(P170からの続き)

- 南側壁面及び南側壁面の背後法面の天端付近に認められる礫混じりシルト混じり砂層は、以下の状況から、斜面堆積物と考えられる。
 - ・本堆積物は、海成堆積物に挟在する斜面堆積物(礫質シルト混じり砂層)と類似した層相を呈する。
 - ・旧海食崖を形成する基盤岩由来の礫(砂質凝灰岩及び火山礫凝灰岩)が認められる。
 - ・基底面が下位の海成堆積物をわずかに侵食している。

【ユニット区分】

- 本調査箇所は、基盤岩の上位に海成堆積物が認められ、標高約47.5m、約48.5m、約48.5m～50.0m及び約50.5mには斜面堆積物が認められる。
- 開削調査箇所(北側)との対比の結果、層相及び分布標高の類似性から、海成堆積物はM1ユニットに区分される。
- 斜面堆積物については、下位からTs1a、Ts1b、Ts2及びTs3ユニットに区分される。
- 本調査箇所に認められる海成堆積物及び斜面堆積物の各ユニットの特徴の整理結果を下表に示す。

開削調査箇所(南側)に認められる各ユニットの特徴(層相の詳細は、P174～P183参照)

海成堆積物のユニット	
M1	○基盤岩の上位に、不整合に堆積する海成堆積物 ・主な層相は、下位から、基底礫層及び砂層に大別される ・砂層は、下位から、葉理が発達する砂層及び葉理が認められる砂層に細分される

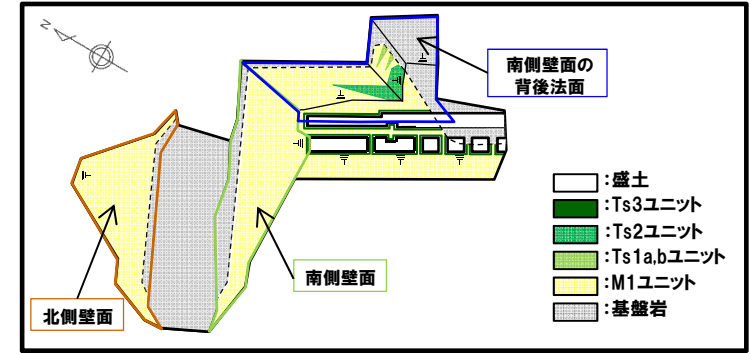
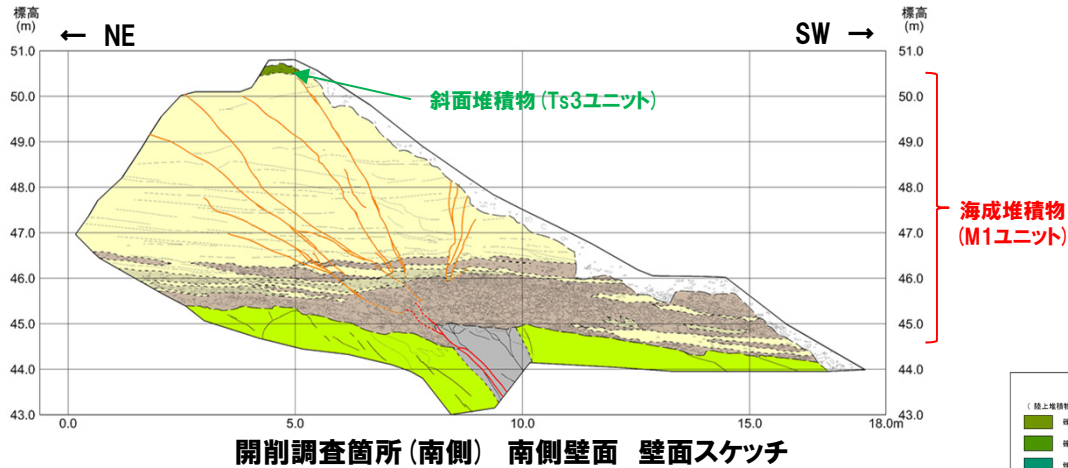
斜面堆積物のユニット	
Ts3	○M1ユニットを侵食して堆積する斜面堆積物 ・主な層相は、礫混じりシルト混じり砂層 ・分布標高は、約50.5m
Ts2	○M1ユニットに挟在する斜面堆積物 ・主な層相は、礫質シルト混じり砂層 ・分布標高は、約48.5～50.0m
Ts1b	○M1ユニットに挟在する斜面堆積物 ・主な層相は、礫質砂層 ・分布標高は、約48.5m
Ts1a	○M1ユニットに挟在する斜面堆積物 ・主な層相は、礫質砂層 ・分布標高は、約47.5m

- F-1断層の上載地層と考えられるTs3ユニットについては、Ts3ユニットを含む標高約51m以上の地層が改変により消失しているものの、南側壁面の背後法面天端付近に数10cmの層厚で分布していることから、詳細観察を実施した(P184～P251参照)。

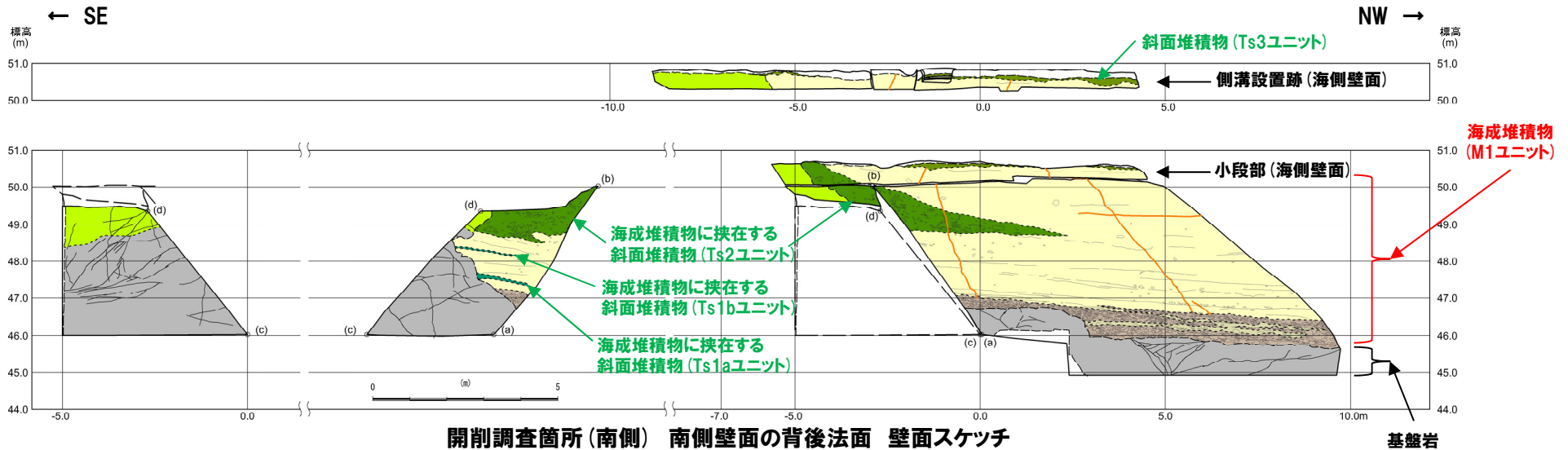
(1)地層区分及びユニット区分

①露頭観察結果(堆積相観察)(4/4)

一部修正(R2/8/7審査会合)



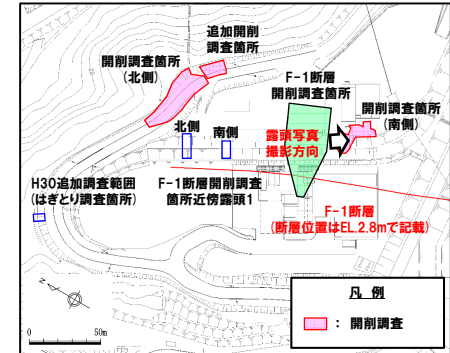
開削調査箇所(南側) 平面模式図



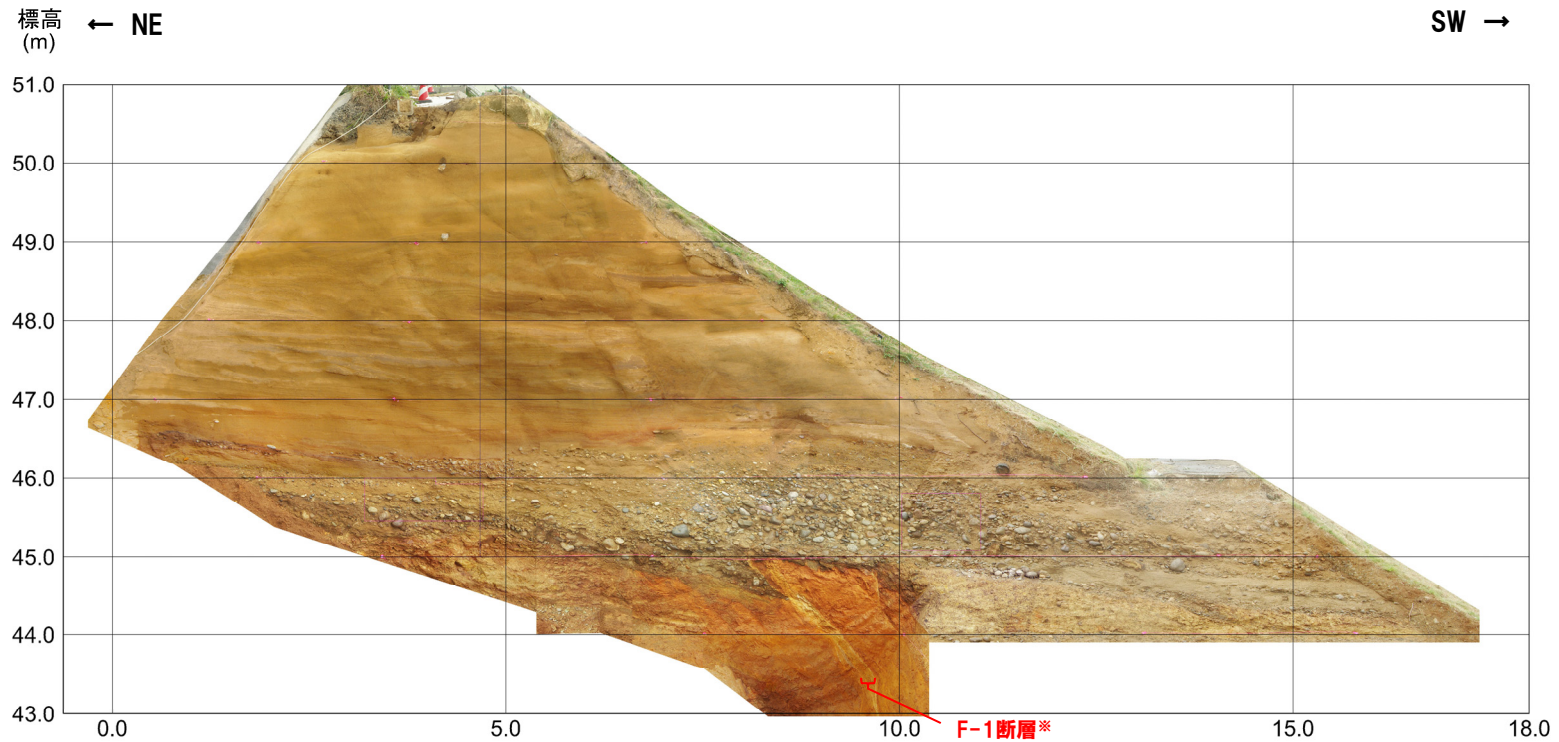
(1)地層区分及びユニット区分

①-1 露頭観察結果(堆積相観察) - 南側壁面(1/2) -

一部修正 (R1/11/7審査会合)



調査位置図



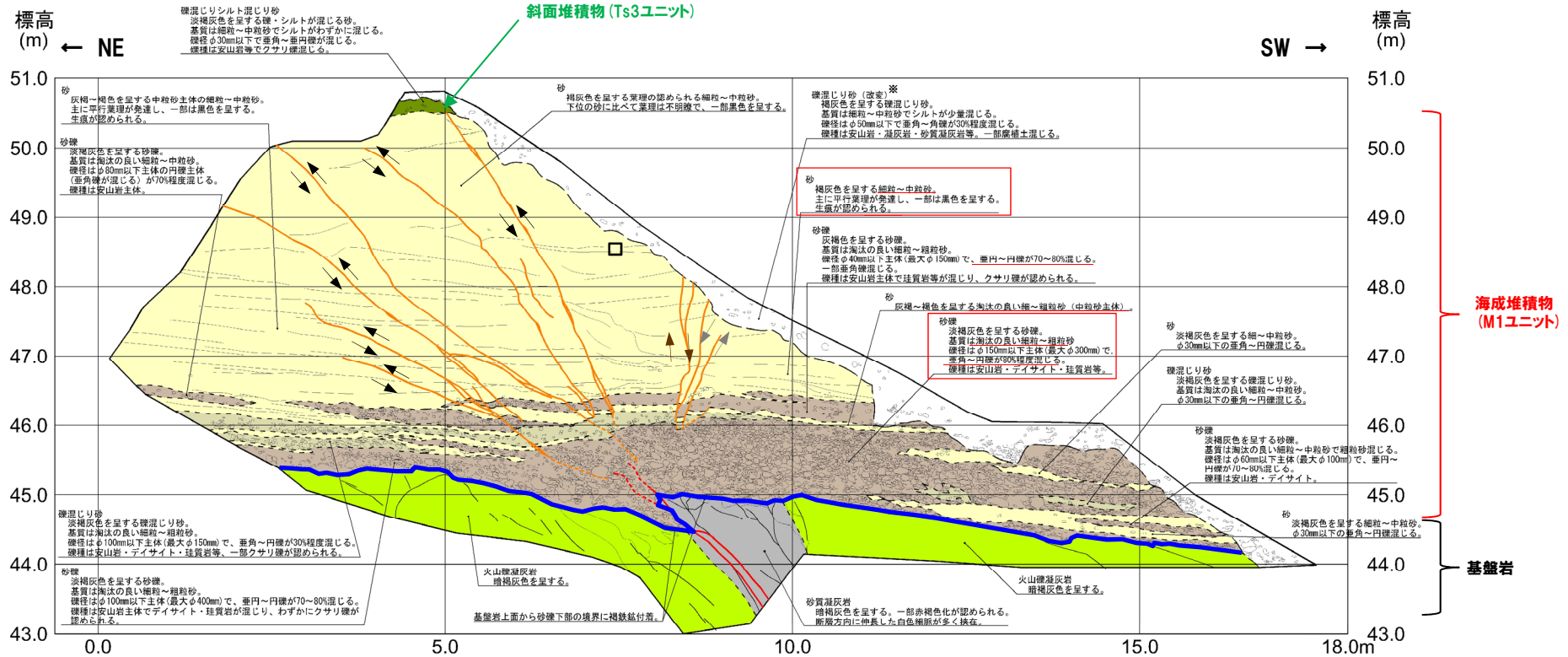
開削調査箇所(南側) 南側壁面写真

※当該断層については、後述する5.2章において、F-1断層に認定している。

(1)地層区分及びユニット区分

①-1 露頭観察結果(堆積相観察) - 南側壁面(2/2) -

一部修正(R1/11/7審査会合)



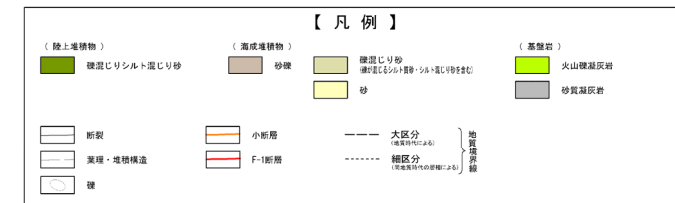
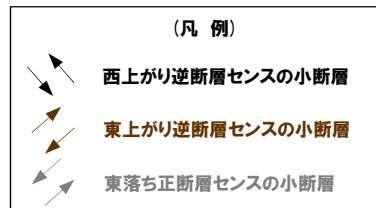
開削調査箇所(南側) 南側壁面スケッチ

□ 生痕確認位置(当該箇所の写真は補足説明資料1.1章参照)

各種観察結果整理表(開削調査箇所(南側))

地層	層相	代表的な記事
斜面堆積物	礫混じりシルト混じり砂	・淡褐色を呈する ・垂角～歪円礫、クサリ礫混じる ・礫は安山岩等 ・基質は細粒砂～中粒砂、シルト混じる
	砂	・灰褐色～褐色を呈する ・葉理が認められる若しくは葉理の発達する細粒砂～中粒砂 ・生痕が認められる
海成堆積物	砂礫	・淡褐色を呈する ・歪角～円礫 ・礫は安山岩主体、デイスイト、珪質岩等 ・基質は淘汰の良い細粒砂～粗粒砂
	砂質凝灰岩	・暗褐色を呈し、一部赤褐色化が認められる
基盤岩	砂質凝灰岩	・暗褐色を呈する
	火山礫凝灰岩	・暗褐色を呈する

※当該層は、法面保護工(鋼製法枠工)施工後に緑化のために盛立てた客土である。客土には、敷地造成前の表土を用いている。
 なお、上記については、R2.9.10.11現地調査資料「3.4 開削調査箇所(南側)付近における敷地造成について」を踏まえ、今回、記載の適正化を図った。

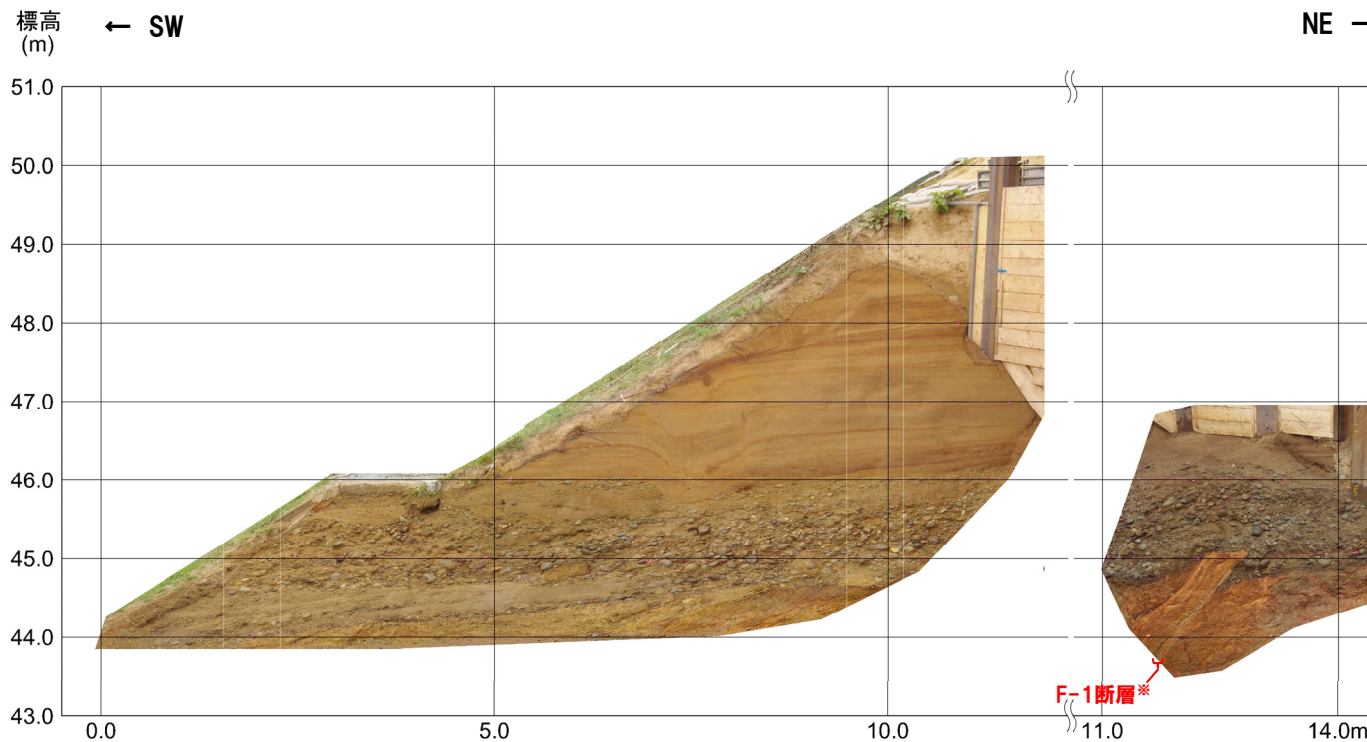
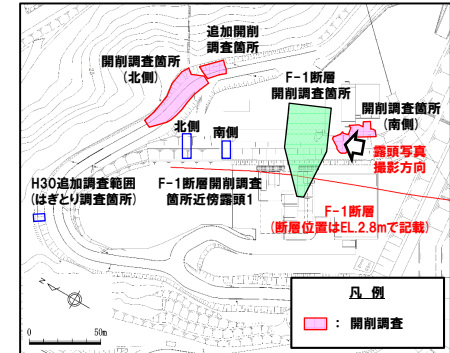


(凡例)
 — : 基盤岩上面

(1)地層区分及びユニット区分

①-2 露頭観察結果(堆積相観察) -北側壁面(1/2) -

一部修正 (R1/11/7審査会合)



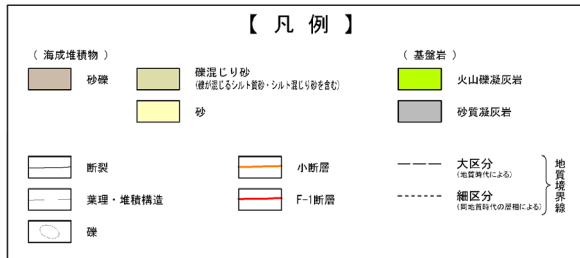
開削調査箇所(南側) 北側壁面写真

※当該断層については、後述する5.2章において、F-1断層に認定している。

(1)地層区分及びユニット区分

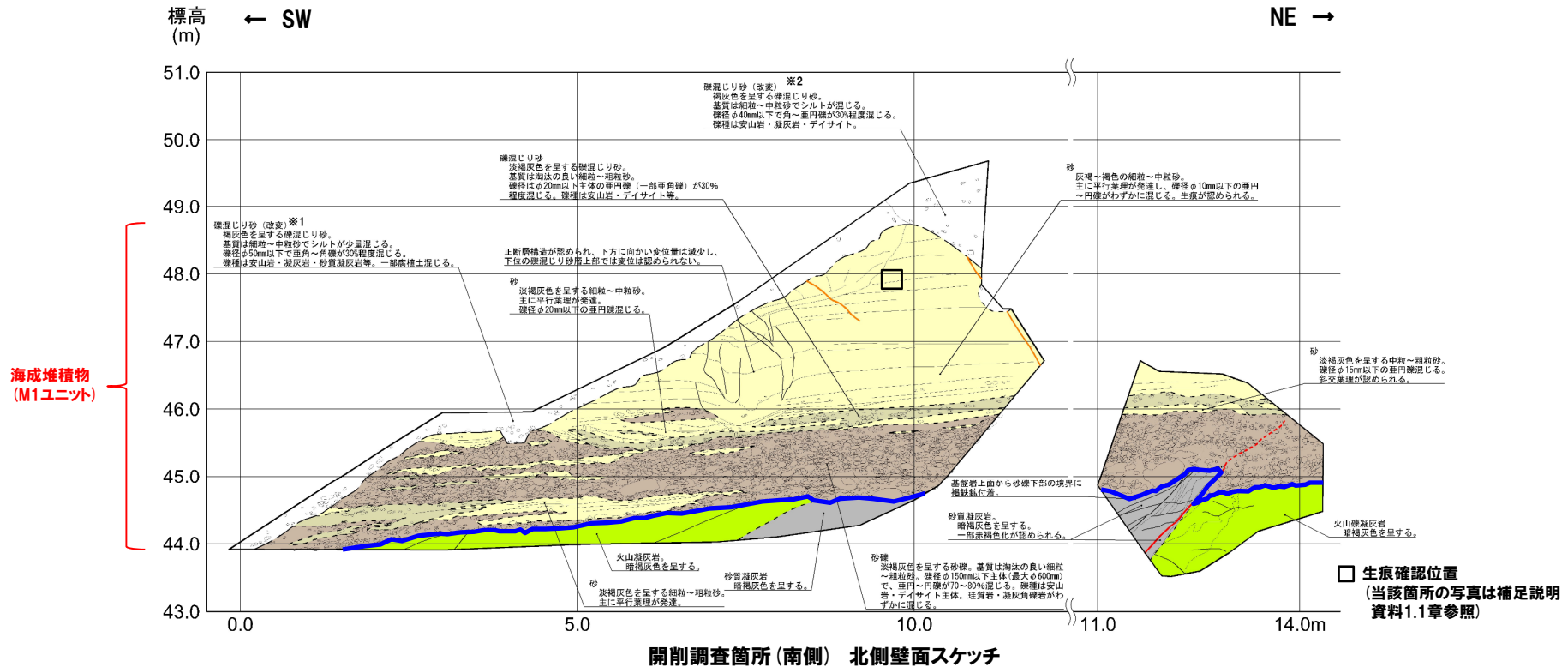
①-2 露頭観察結果(堆積相観察) -北側壁面(2/2) -

一部修正(R1/11/7審査会合)



※1 当該層は、法面保護工(鋼製法枠工)施工後に緑化のために盛立てた客土である。客土には、敷地造成前の表土を用いている。
 なお、上記については、R2.9.10.11現地調査資料「3.4 開削調査箇所(南側)付近における敷地造成について」を踏まえ、今回、記載の適正化を図った。

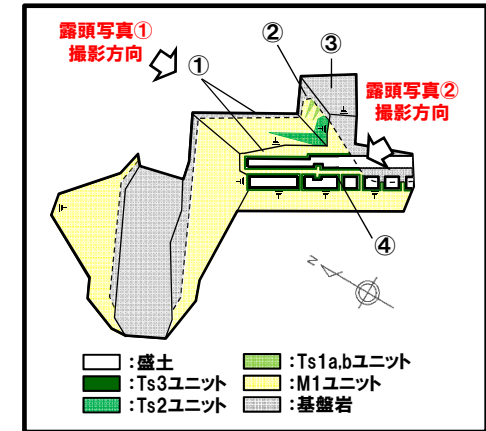
※2 当該層は、親杭横矢板設置に当たり、発生した掘削土を埋戻したものである。



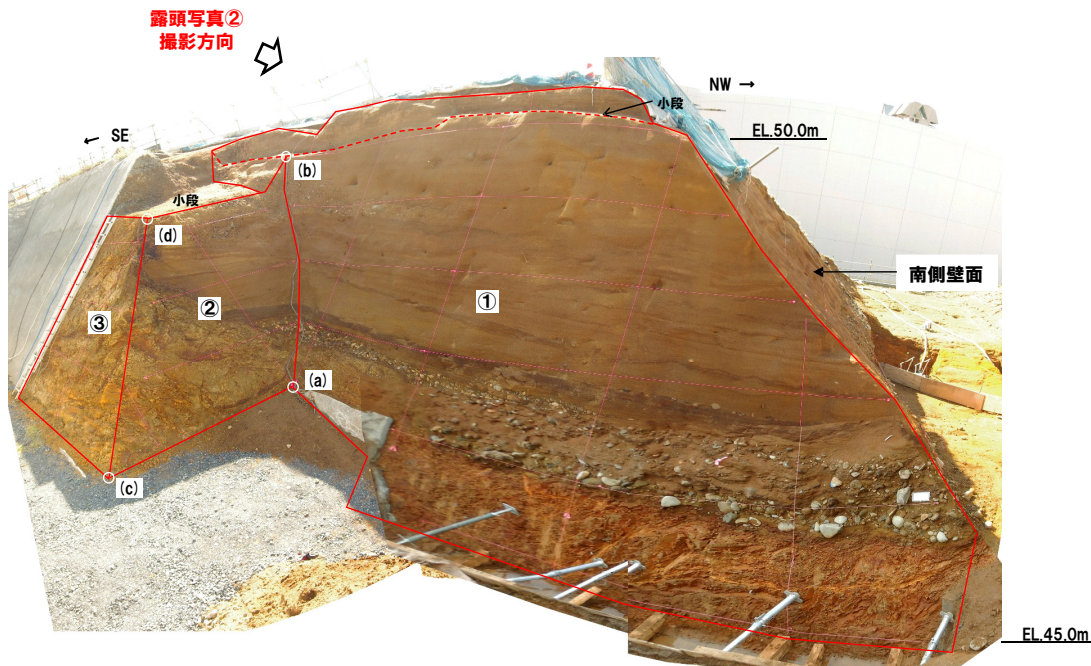
(1)地層区分及びユニット区分

①-3 露頭観察結果(堆積相観察) - 南側壁面の背後法面(1/6) -

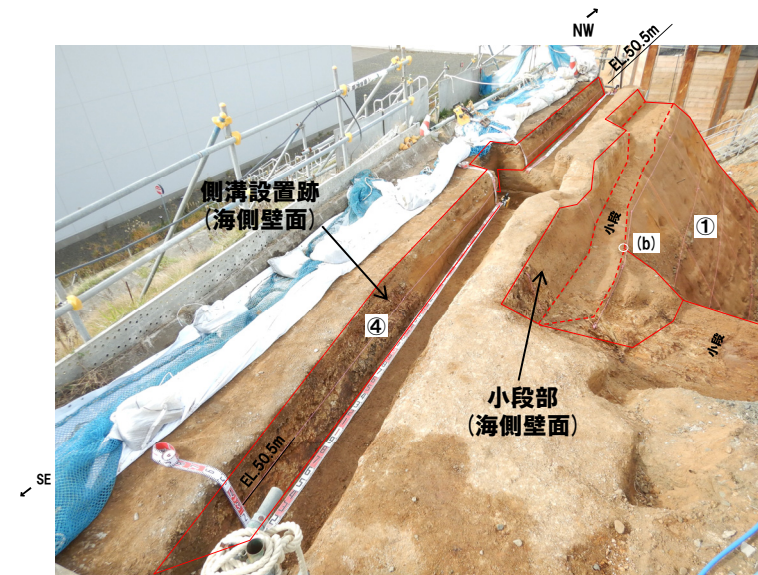
一部修正(R2/4/16審査会合)



開削調査箇所(南側)平面模式図



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 露頭写真①

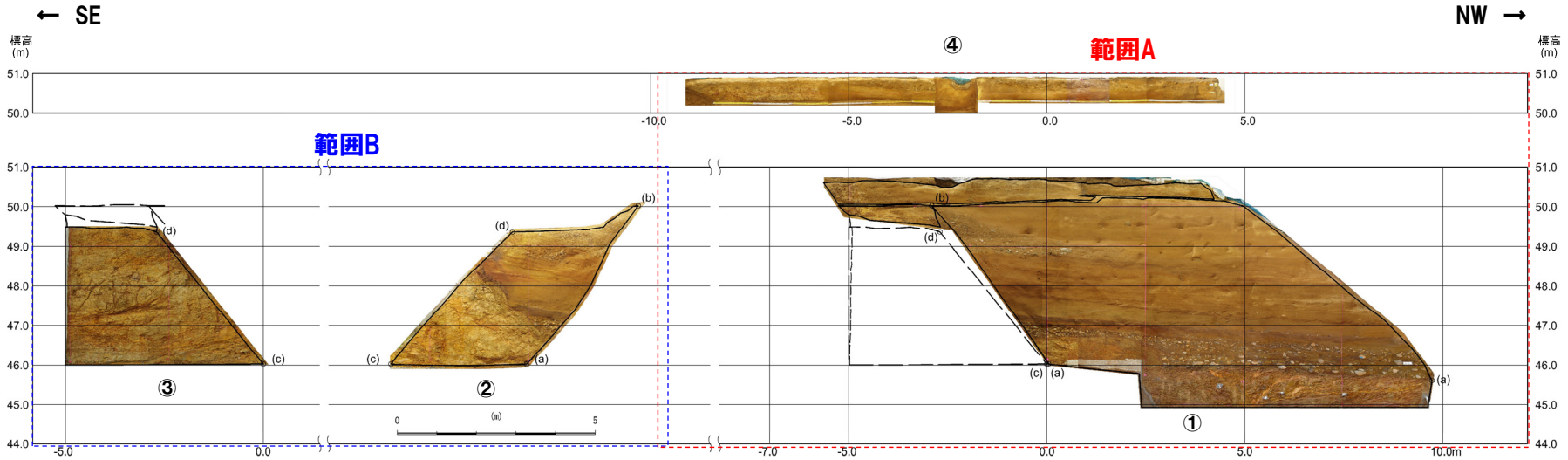


開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 露頭写真②

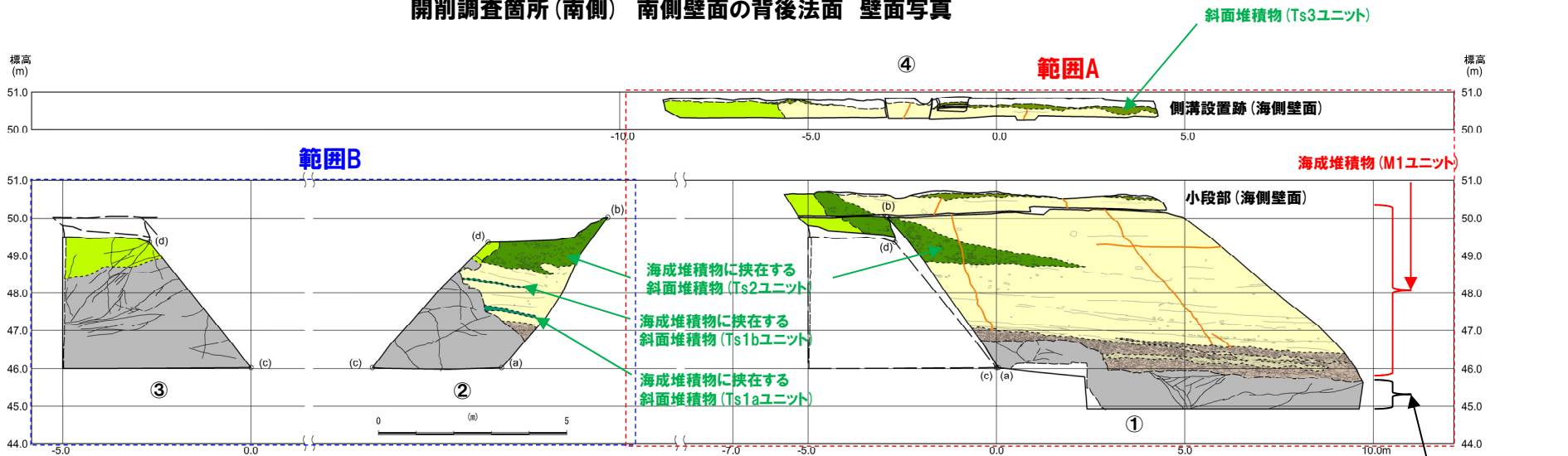
(1)地層区分及びユニット区分

①-3 露頭観察結果(堆積相観察) -南側壁面の背後法面(2/6) -

一部修正(R2/4/16審査会合)



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面写真



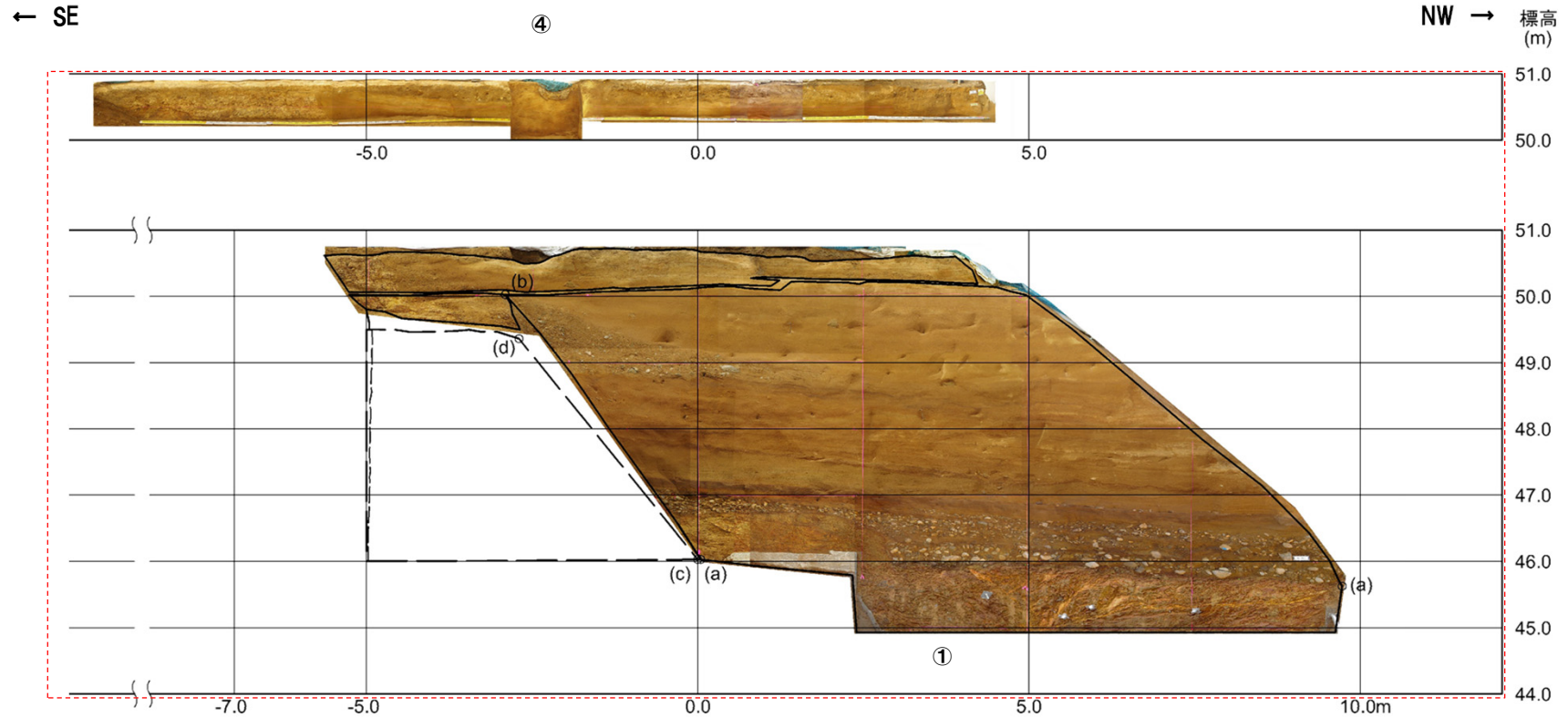
開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面スケッチ

基盤岩
(砂質凝灰岩, 火山礫凝灰岩)

(1)地層区分及びユニット区分

①-3 露頭観察結果(堆積相観察) - 南側壁面の背後法面(3/6) -

再掲(R2/4/16審査会合)

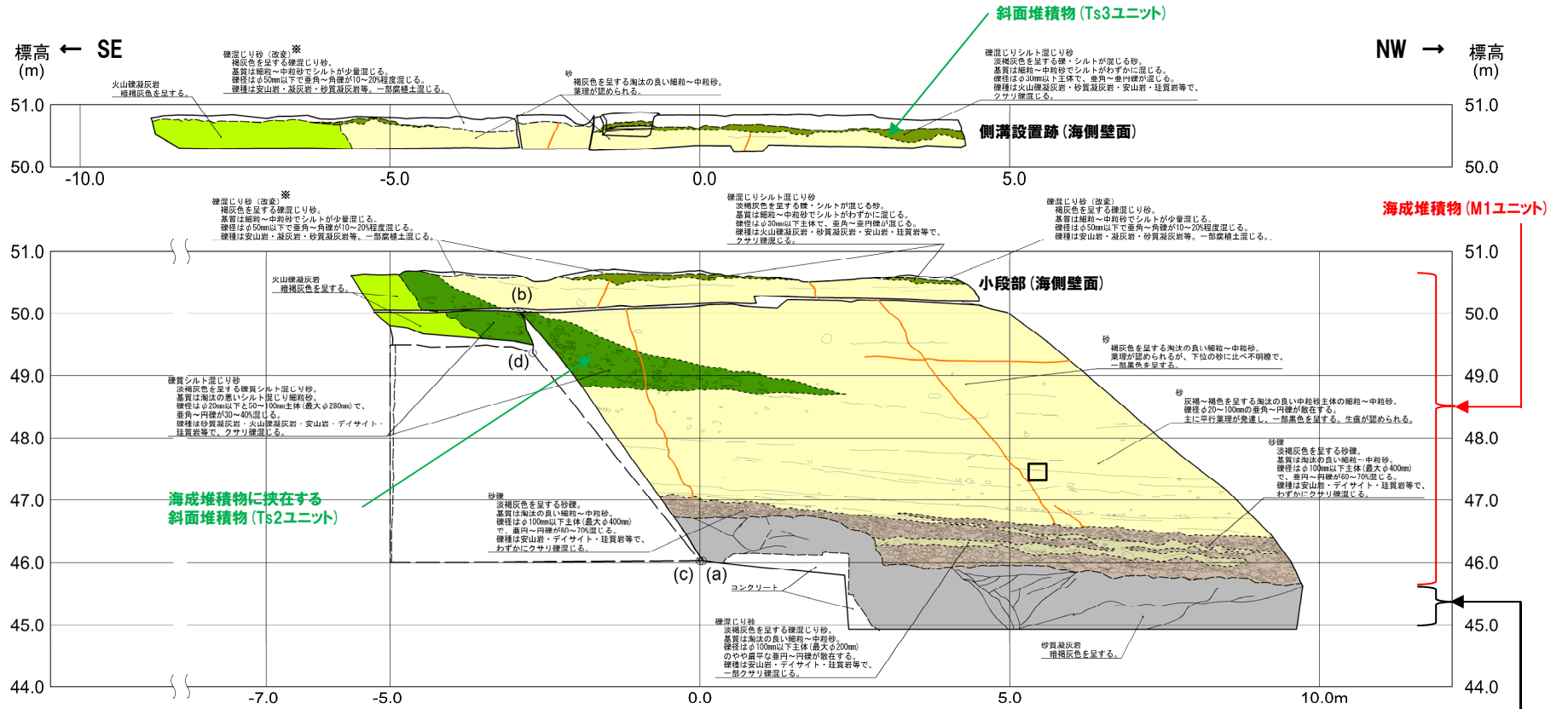


開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面写真(範囲A)

(1)地層区分及びユニット区分

①-3 露頭観察結果(堆積相観察) - 南側壁面の背後法面(4/6) -

一部修正(R2/4/16審査会合)



【凡例】

(陸上堆積物)	(海成堆積物)	(基盤岩)
■ 礫混じりシルト混じり砂	■ 砂礫	■ 火山礫凝灰岩
■ 礫質シルト混じり砂	■ 砂	■ 砂質凝灰岩
■ 礫質砂		
— 断層	— 小断層	— 大区分 (地層別による)
— 崖理・堆積構造		— 細区分 (堆積相別の層別による)
○ 礫		

□ 生痕確認位置(当該箇所の写真は補足説明資料1.1章参照)

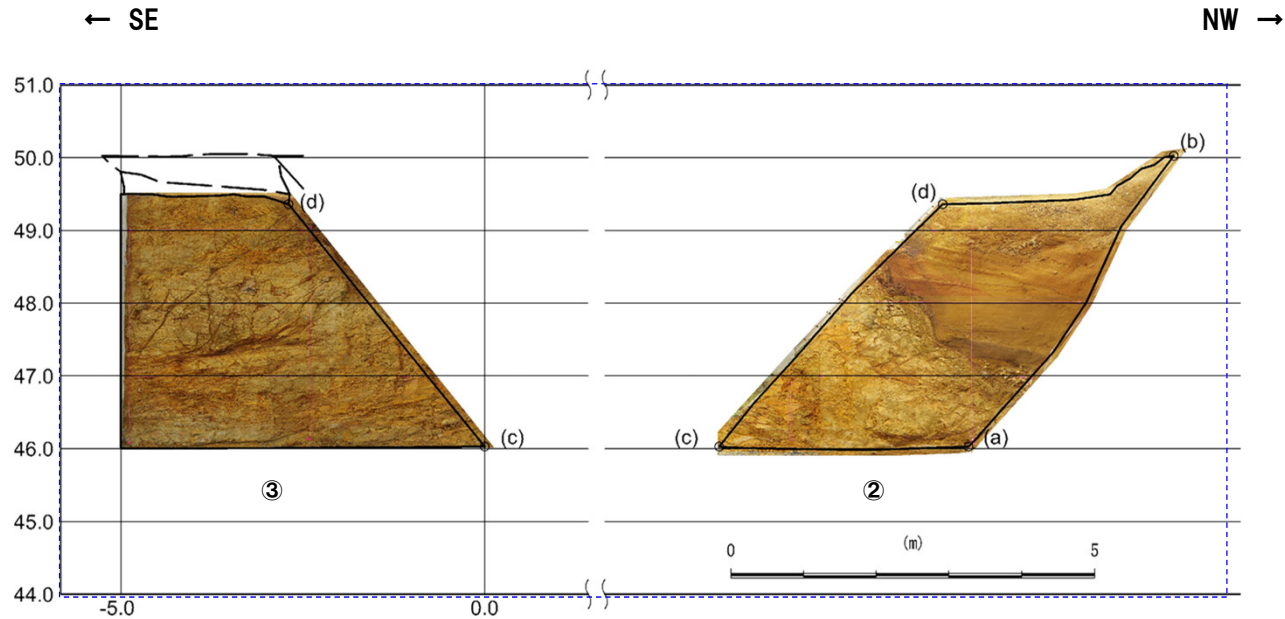
※当該層は、51m盤の平坦部を形成した際の不陸整正土である。
 不陸整正土には、同平坦部を形成した際の現地発生した土礫を用いている。
 なお、上記については、R2.9.10.11現地調査資料「3.4 開削調査箇所(南側) 付近における敷地造成について」を踏まえ、今回、記載の適正化を図った。

開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面スケッチ(範囲A)

(1)地層区分及びユニット区分

①-3 露頭観察結果(堆積相観察) - 南側壁面の背後法面(5/6) -

一部修正(R2/4/16審査会合)

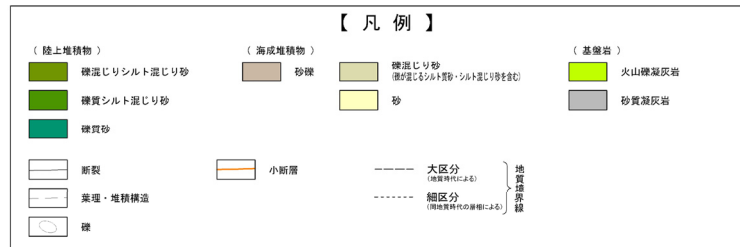
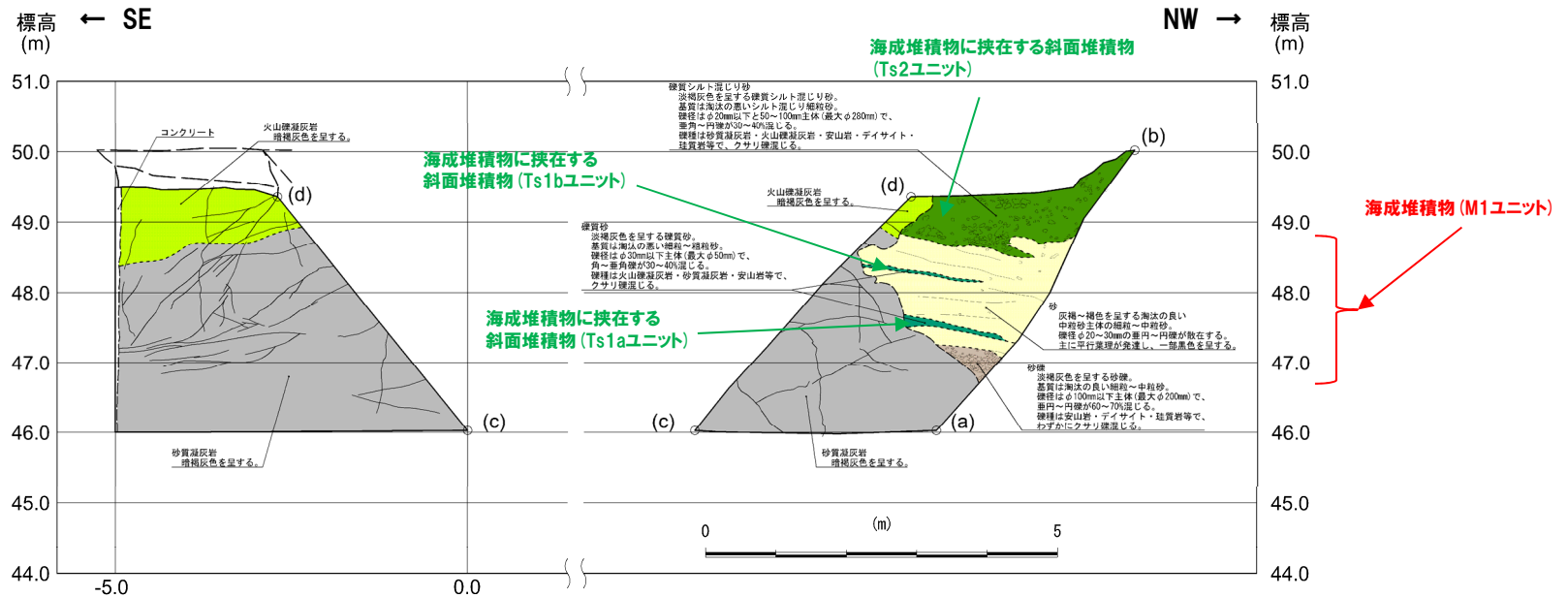


開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面写真(範囲B)

(1)地層区分及びユニット区分

①-3 露頭観察結果(堆積相観察) - 南側壁面の背後法面(6/6) -

一部修正(R2/4/16審査会合)



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面スケッチ(範囲B)

(1)地層区分及びユニット区分

②Ts3ユニットの特徴及び分布状況(1/3)

一部修正(R2/8/7審査会合)

- F-1断層の上載地層と考えられるTs3ユニットの特徴及び分布状況を確認するため、南側壁面の背後法面天端付近において、露頭観察を実施した(対象壁面は、P188参照)。
- また、各堆積物及び盛土を対象に、はぎとり転写試料を用いた詳細観察(詳細は、P204～P243参照)を実施しており、この結果等に基づく、特徴の整理結果を次頁に示す。
- 加えて、南側壁面の背後法面天端付近のTs3ユニットについて、F-1断層が認められる南側壁面との連続性を確認した(P244～P251参照)。

【Ts3ユニットの特徴】

- Ts3ユニットは、以下のとおり、下部及び上部に区分される。
 - ・Ts3ユニット下部は、シルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に分布又はシルトの偽礫が認められる。
 - ・Ts3ユニット上部は、礫混じりシルト混じり砂で、軟質化したクサリ礫の亜円礫及び風化した亜円礫が認められる。
- Ts3ユニット下部の基底面は、M1ユニットを侵食する侵食面であり、Ts3ユニットとM1ユニットの層相境界は明瞭である。
- Ts3ユニット上部と盛土の層相境界は明瞭であり、その境界は断続的に剥離する。
- Ts3ユニットは、下部及び上部で層相の差異が認められるものの、その層相境界は明瞭ではない。
- Ts3ユニットは、Ts1aユニット、Ts1bユニット及びTs2ユニットと同様な特徴が認められるものの、これらのユニットには、Ts3ユニットに認められる下部及び上部の区分は認められない。

- なお、Ts3ユニット下部及び上部については、後述する各種観察・分析・測定結果及び成因に関する検討を踏まえ、それぞれTs3aユニット及びTs3bユニットに区分した。
- このため、以降は、Ts3ユニット下部をTs3aユニット、Ts3ユニット上部をTs3bユニットと呼称する。
- また、既往評価のTs3ユニット(遷移部)との考え方の違いについては、P189参照。

(1)地層区分及びユニット区分

②Ts3ユニットの特徴及び分布状況(2/3)

一部修正(R2/8/7審査会合)

開削調査箇所(南側)に認められる各堆積物及び盛土の特徴

地層区分	ユニット区分		層相				層相境界の状況
			色調	性状	礫	その他	
盛土	-		・暗褐灰～黒褐灰色を呈する	・シルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しい ・不均質な層相を示す	・新鮮な角～亜円礫が混じる	・黒褐灰色を呈する箇所及びシート状の黒褐灰色のブロックが認められる ・縦方向の亀裂が発達する ・斜面堆積物に比べ、植物根が多く認められる	<p>○層相境界は明瞭であり、その境界は断続的に剥離する。</p> <p>○層相境界は、明瞭ではない。</p> <p>○Ts3aユニットの基底面は、M1ユニットを侵食する侵食面であり、層相境界は明瞭である。 ○Ts3aユニットの分布は断続的であり、Ts3bユニットがM1ユニットの直上に分布する箇所も認められる。 ○Ts3bユニットの基底面は、M1ユニットを侵食する侵食面であり、層相境界は明瞭である。</p>
斜面堆積物	Ts3	上部(Ts3b)	・褐灰～暗褐灰色を呈する	・礫混じりシルト混じり砂	・軟質化したクサリ礫の亜円礫及び風化した亜円礫が認められる	・塊状若しくは粒状の黒色のブロックが認められる	
		下部(Ts3a)	・褐灰色を呈する	・シルト混じり砂	-	・細粒～中粒砂がパッチ状に分布する ・シルトの偽礫が認められる ・塊状の黒色のブロックが認められる	
海成堆積物	M1		・明褐灰～褐灰色を呈する	・細粒～中粒砂 ・淘汰が良い	-	・葉理が認められる	
斜面堆積物	Ts2		・淡褐灰色を呈する	・礫質シルト混じり砂	・旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の亜角礫及び砂質凝灰岩由来の角礫が認められる※ ・基盤岩由来ではない亜円礫をわずかに含む	・基底部の層相はシルト混じり砂で、Ts3aユニットに類似しているが、パッチ状の細粒～中粒砂又はシルトの偽礫は認められない	・基底面は下位のM1ユニットを侵食している
	Ts1(Ts1a及びTs1b)		・淡褐灰色を呈する	・礫質砂	・旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の角礫が認められる※	-	-

青書きはTs3ユニットと異なる特徴
朱書きはTs3ユニットと同様な特徴

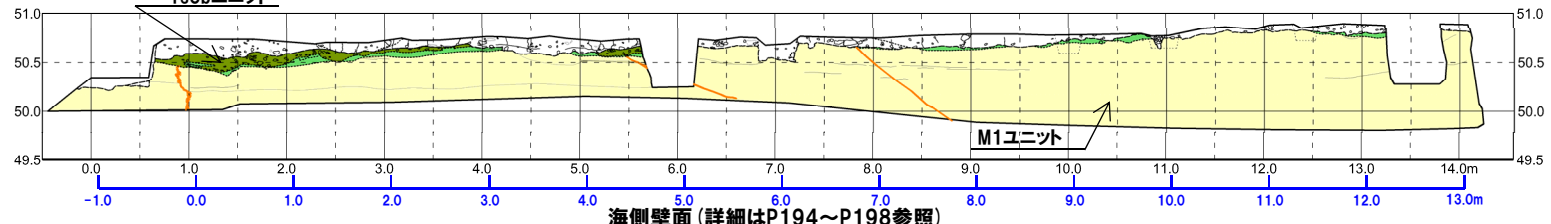
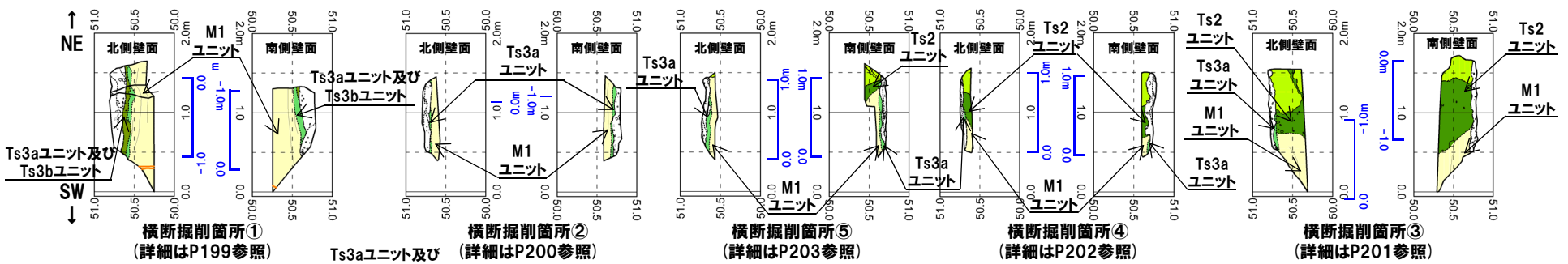
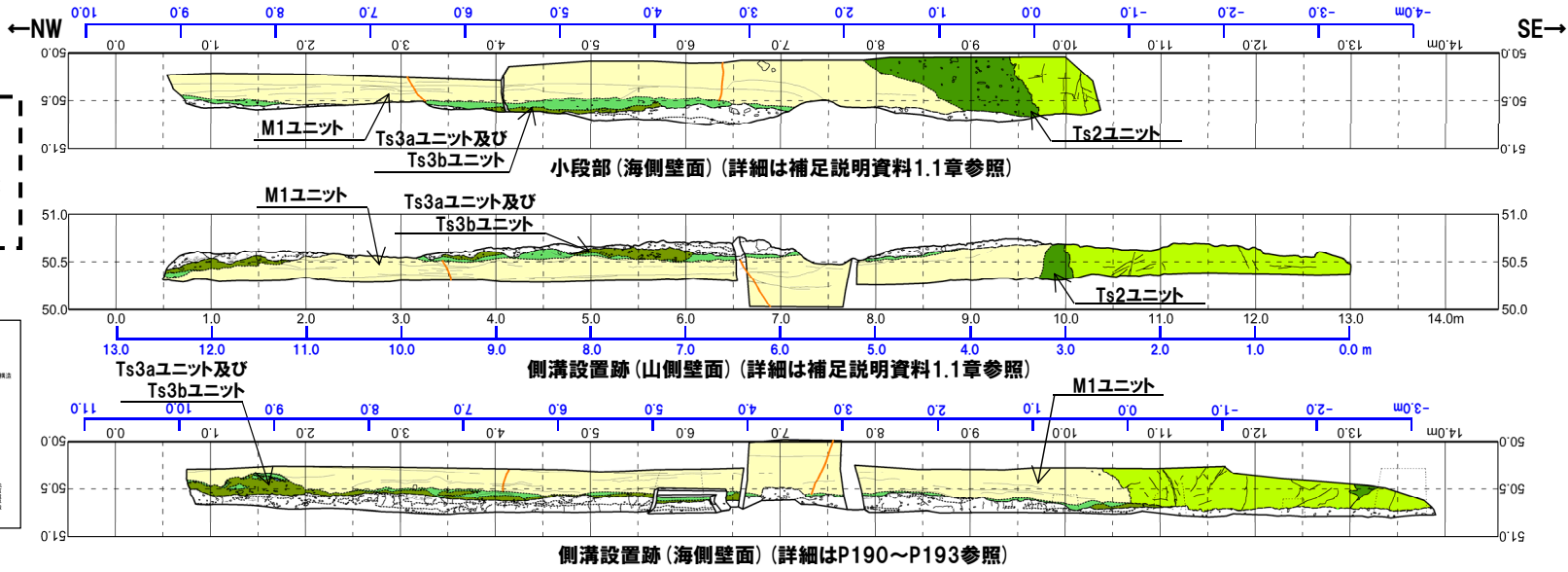
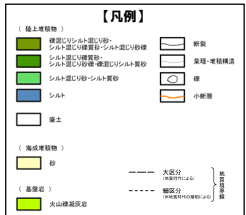
※後述する薄片観察及び礫種・礫の形状調査の結果、Ts3bユニットには、旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩及び砂質凝灰岩由来の礫が認められる。

(1)地層区分及びユニット区分

②Ts3ユニットの特徴及び分布状況(3/3)

一部修正(R2/8/7審査会合)

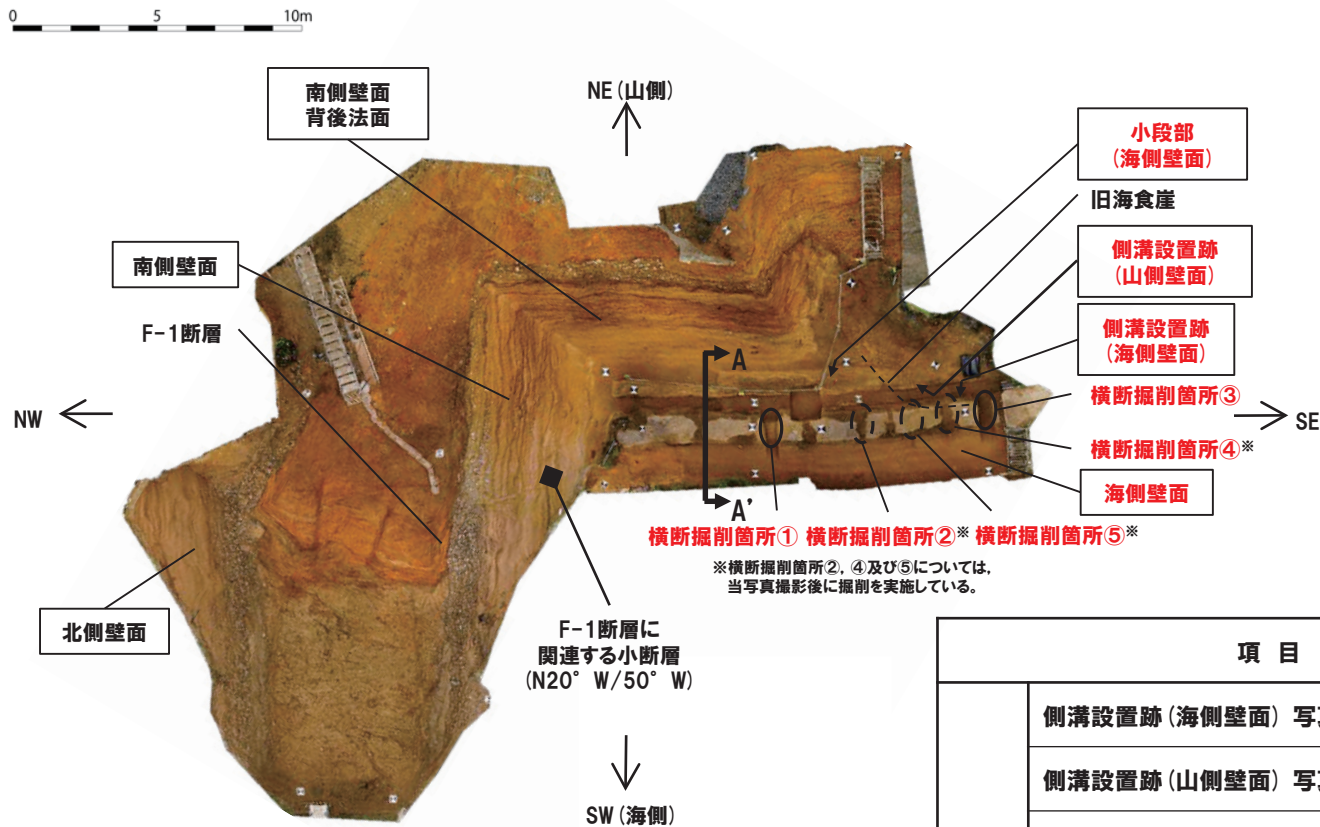
黒字の距離呈は、当展開図における距離呈を、青字の距離呈は、P190～P203及び補足説明資料1.1章に示す各壁面スケッチの距離呈を示す。



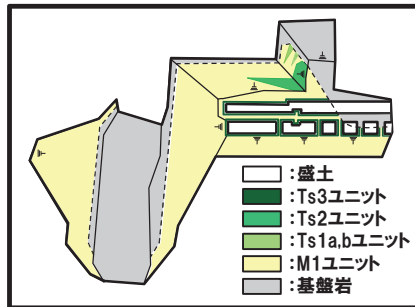
開削調査箇所(南側)南側壁面の背後法面天端付近スケッチ展開図

余白

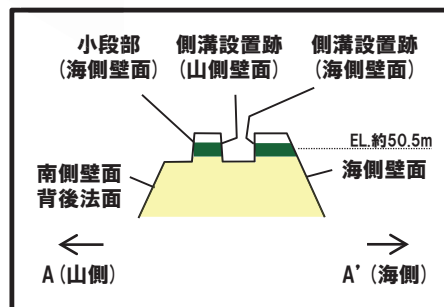
(1)地層区分及びユニット区分



開削調査箇所(南側)南側壁面の背後法面天端付近の詳細スケッチ作成範囲



平面模式図



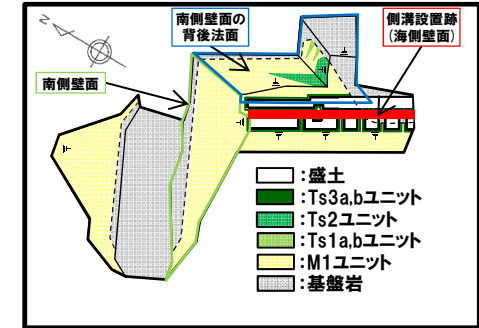
南側壁面の背後法面 天端付近 断面模式図 (A-A'断面)

項目		掲載頁
②-1	側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ	本編資料P190~P193
	側溝設置跡(山側壁面) 写真及びスケッチ	補足説明資料1.1章
	小段部海側壁面 写真及びスケッチ	補足説明資料1.1章
	海側壁面 写真及びスケッチ	本編資料P194~P198
	横断掘削箇所①~⑤ 写真及びスケッチ	本編資料P199~P203
②-2	南側壁面の背後法面天端付近 堆積相観察 (はぎとり転写試料①~④及び露頭観察箇所①~③)	本編資料P204~P227
	Ts2ユニット 堆積相観察 (はぎとり転写試料)	本編資料P228~P235
	Ts1aユニット及びTs1bユニット堆積相観察 (はぎとり転写試料)	本編資料P236~P243
②-3	南側壁面との連続性	本編資料P244~P251

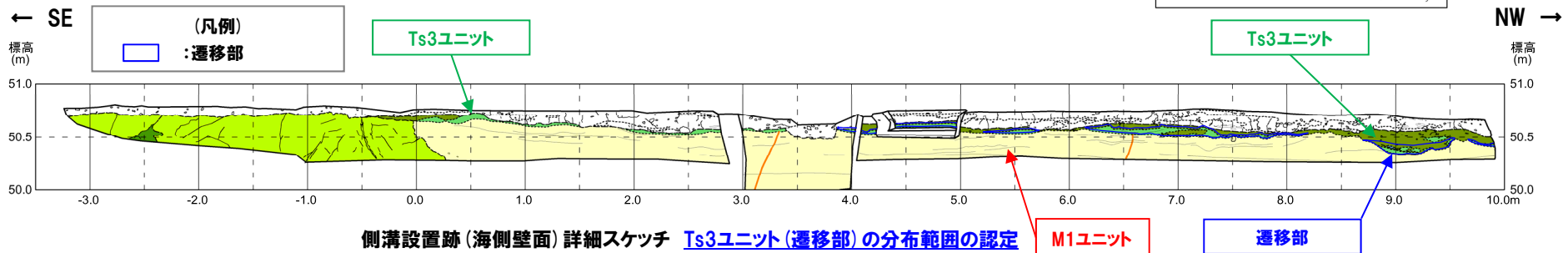
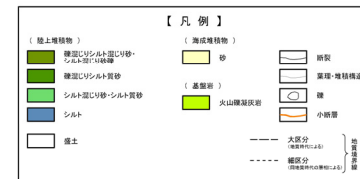
(1)地層区分及びユニット区分

既往評価のTs3ユニット(遷移部)との考え方の違い

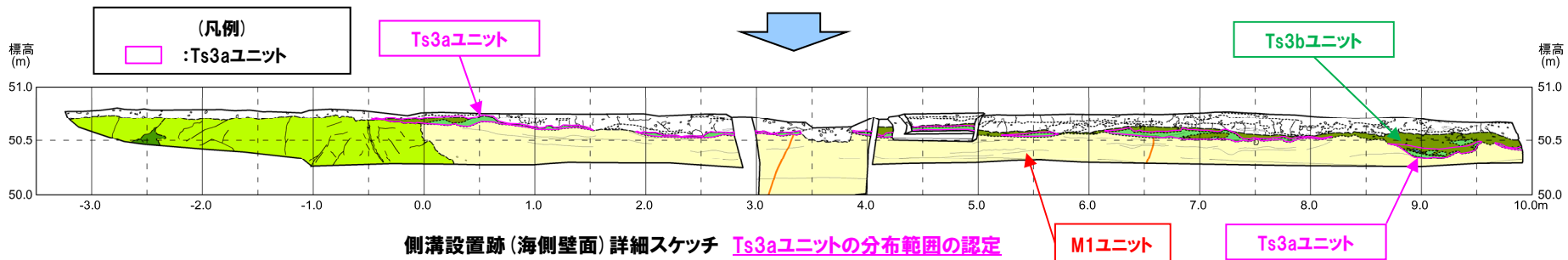
- 既往評価のTs3ユニット(遷移部)は、Ts3aユニットに対比されるものであるが、Ts3ユニット(遷移部)の分布範囲は、Ts3ユニットのうち、以下の条件を満たす範囲として認定していた。
 - ・主にシルト混じり砂からなる下部及び主に礫混じりシルト混じり砂からなる上部が認められる範囲のうちその下部
- 下図に南側壁面の背後法面天端付近のうち、側溝設置跡(海側壁面)のスケッチを一例として示す。
- Ts3ユニット(遷移部)は、上記条件を満たす、下図の青囲みの範囲となる。
- 距離呈約0m~3mの範囲に認められる、主にシルト混じり砂からなる箇所については、主に礫混じりシルト混じり砂からなる上部が認められないことから、Ts3ユニット(遷移部)とは認定していなかった。
- 一方、今回のTs3aユニット及びTs3bユニットの分布範囲は、主な層相及び堆積物の連続性を重視し、Ts3aユニットの分布範囲は、下図の桃色囲みの範囲として認定した。
- 背後法面天端付近のその他の壁面についても、同様な考えで、Ts3aユニットの分布範囲を認定している。



開削調査箇所(南側)平面模式図



側溝設置跡(海側壁面)詳細スケッチ Ts3ユニット(遷移部)の分布範囲の認定

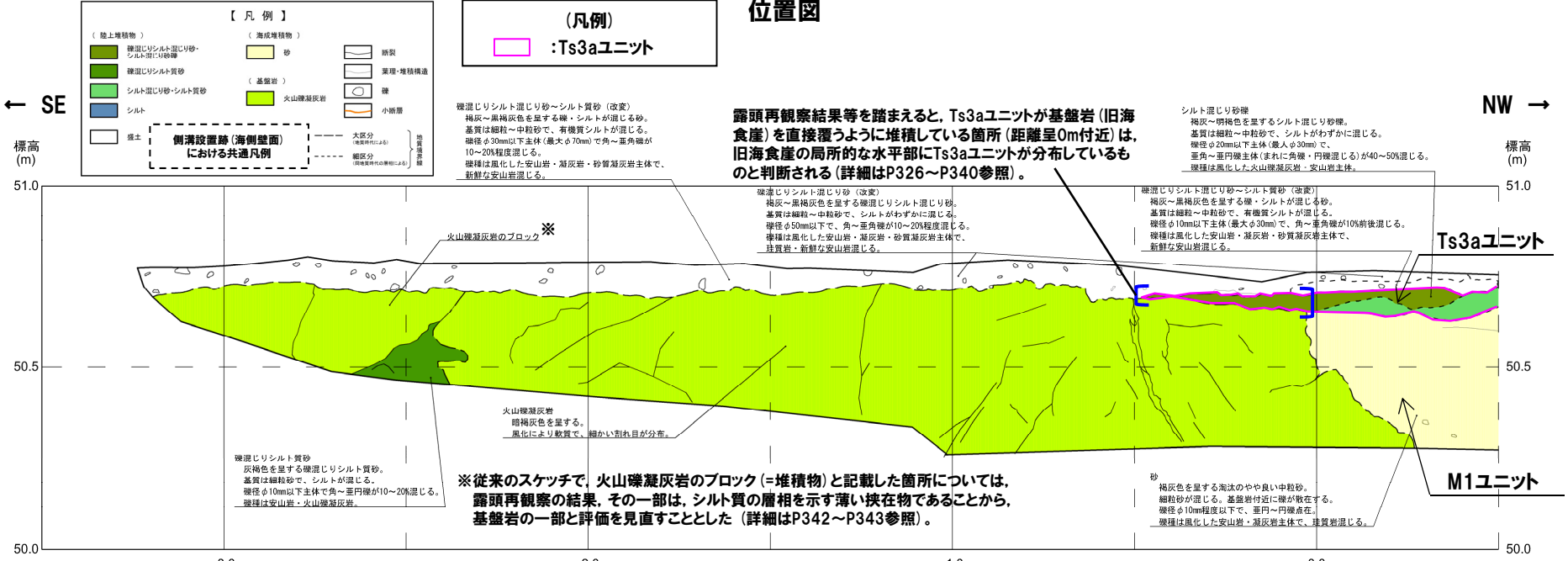
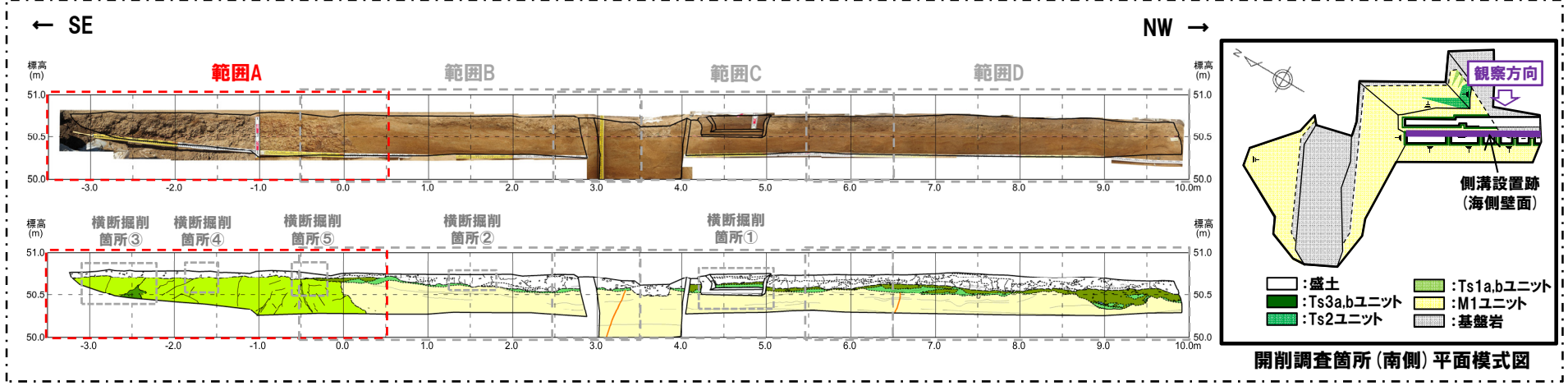


側溝設置跡(海側壁面)詳細スケッチ Ts3aユニットの分布範囲の認定

(1)地層区分及びユニット区分

②-1 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(1/4)

一部修正(R2/8/7審査会合)

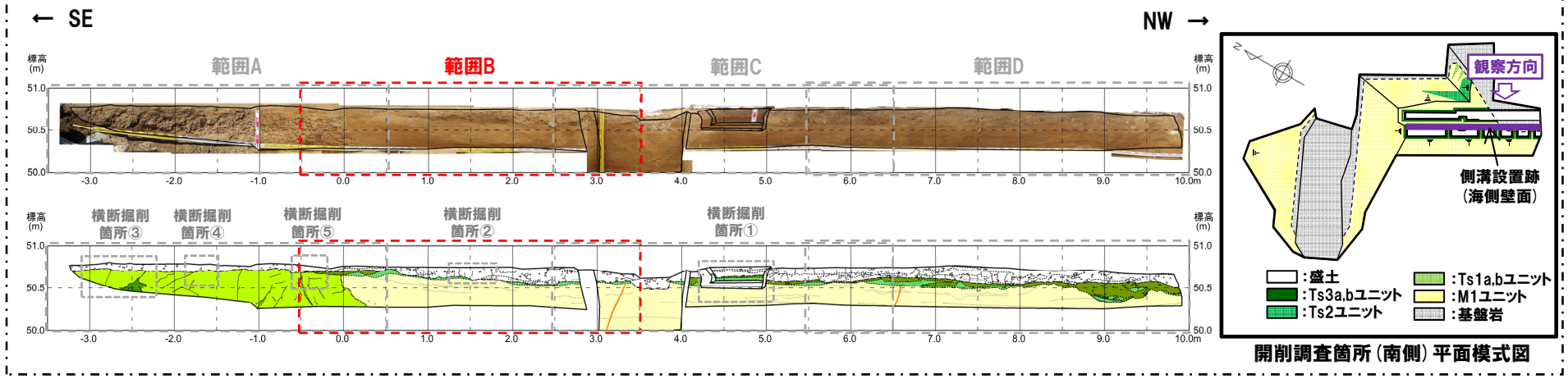


開削調査箇所(南側)側溝設置跡(海側壁面) スケッチ(範囲A)

(1)地層区分及びユニット区分

②-1 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(2/4)

一部修正(R2/8/7審査会合)



露頭再観察結果等を踏まえると、Ts3aユニットが基盤岩(旧海食産)を直接覆うように堆積している箇所(距離呈0m付近)は、旧海食産の局所的な水平部にTs3aユニットが分布しているものと判断される(詳細はP326~P340参照)。

【凡例】

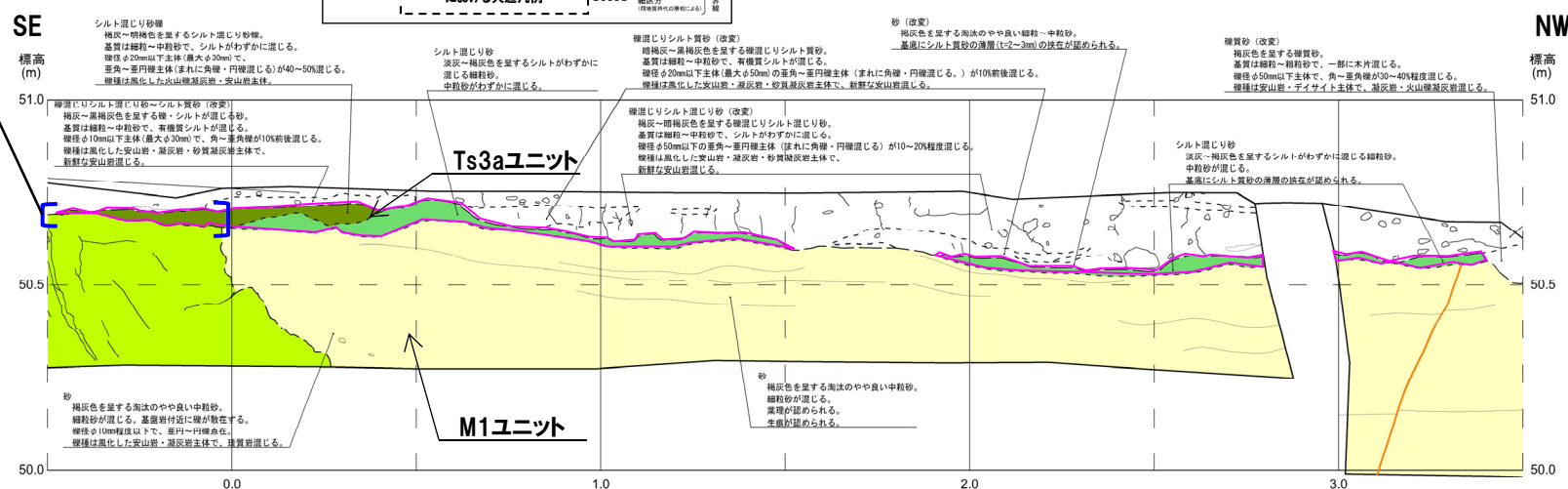
(陸上堆積物)	(海成堆積物)	
硬泥りシルト混じり砂・シルト質の粗砂	砂	割裂
硬泥りシルト質砂	(基盤岩)	薬理・増粘構造
シルト混じり砂・シルト質砂	火山噴灰岩	礫
シルト		小断層
盛土		大断層(横断方向に並行)
		相区分(隣接層との境界は0.5m)

側溝設置跡(海側壁面)における共通凡例

位置図

(凡例)

□ : Ts3aユニット

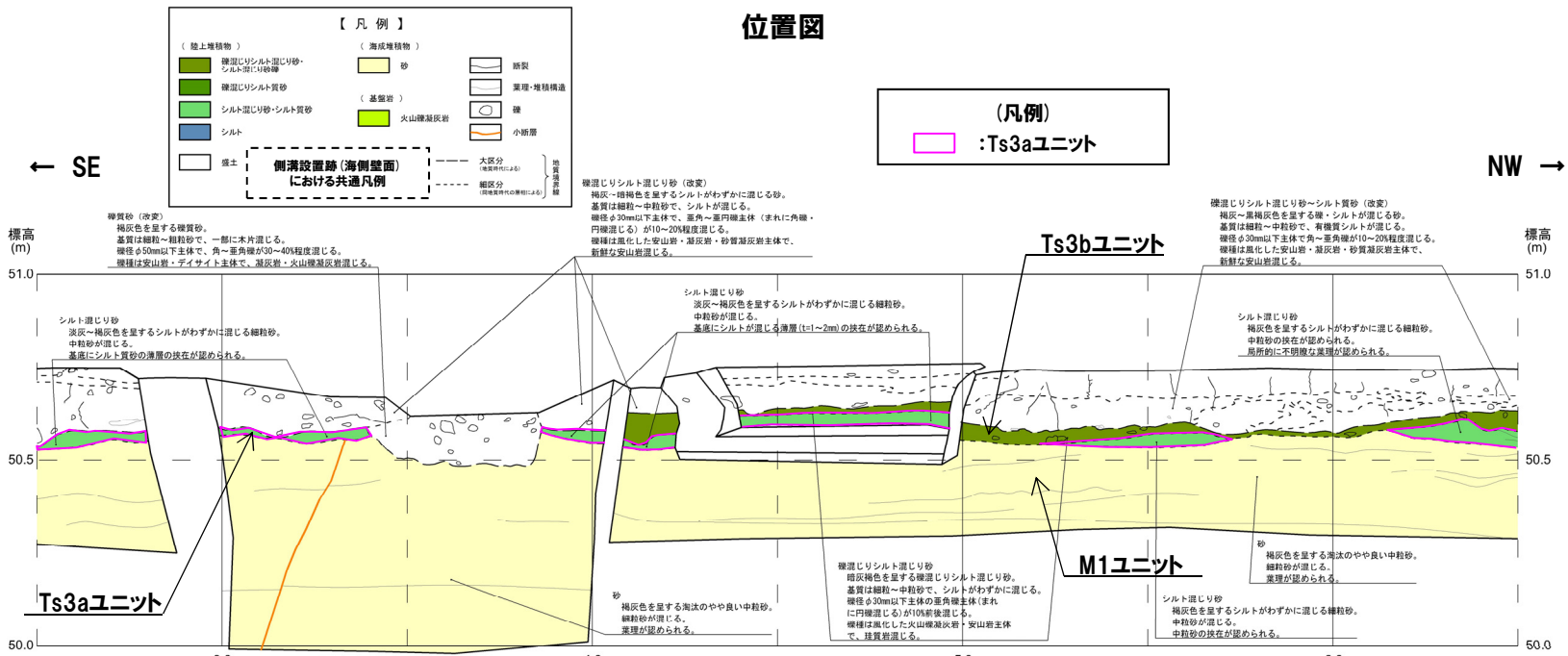
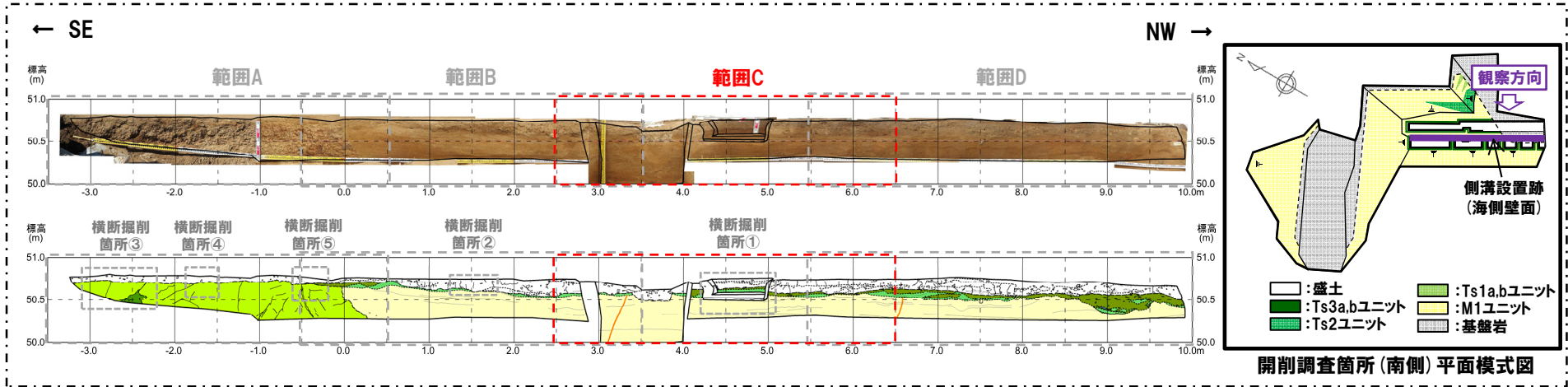


開削調査箇所(南側) 側溝設置跡(海側壁面) スケッチ(範囲B)

(1)地層区分及びユニット区分

②-1 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(3/4)

一部修正(R2/8/7審査会合)

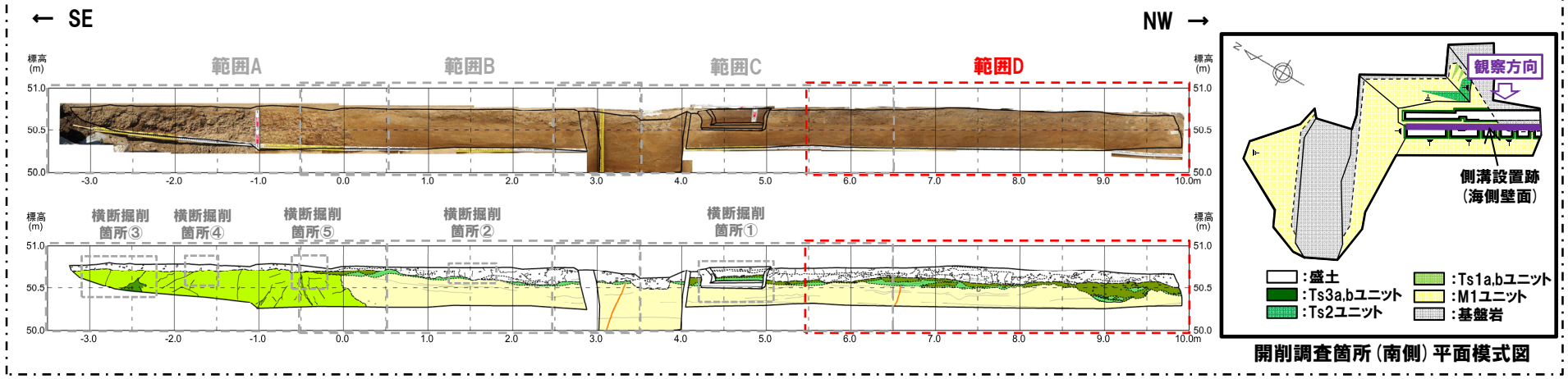


開削調査箇所(南側) 側溝設置跡(海側壁面) スケッチ(範囲C)

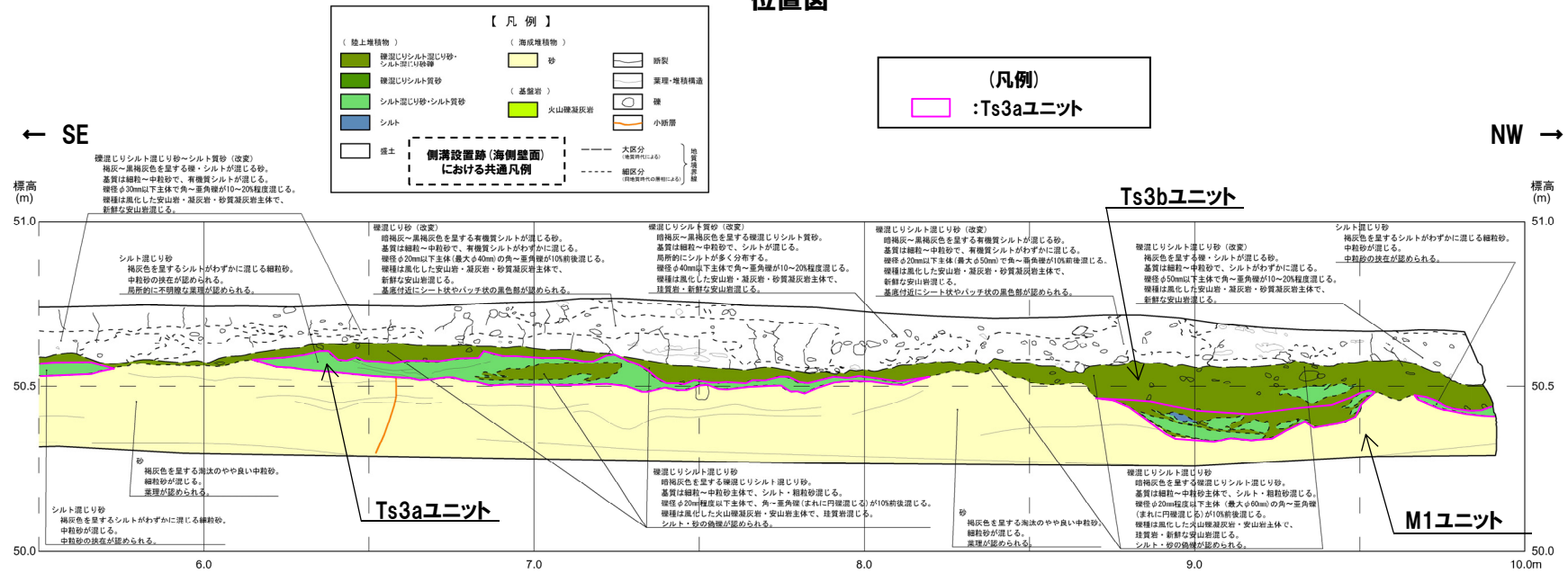
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(4/4)

一部修正(R2/8/7審査会合)



位置図

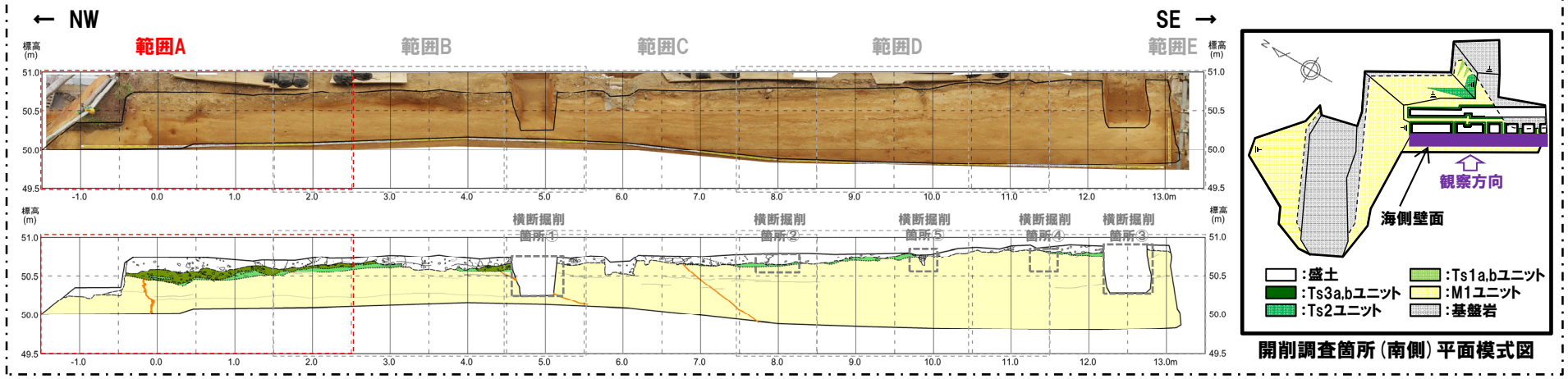


開削調査箇所(南側) 側溝設置跡(海側壁面) スケッチ(範囲D)

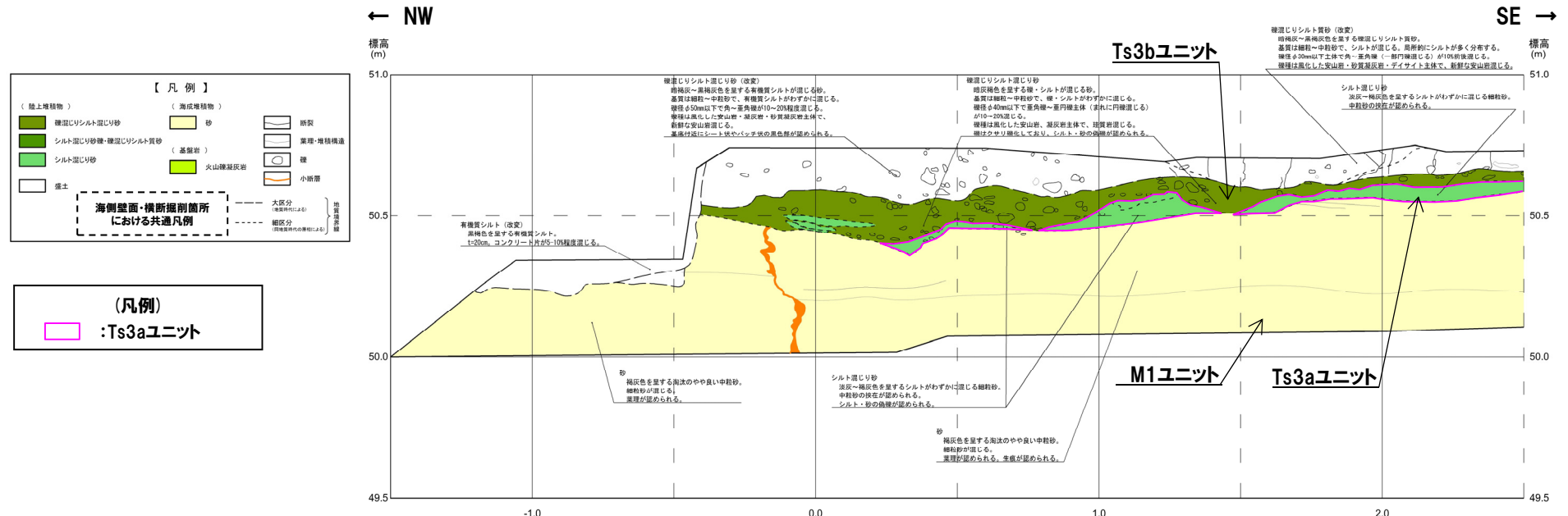
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 海側壁面 写真及びスケッチ (1/5)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



位置図

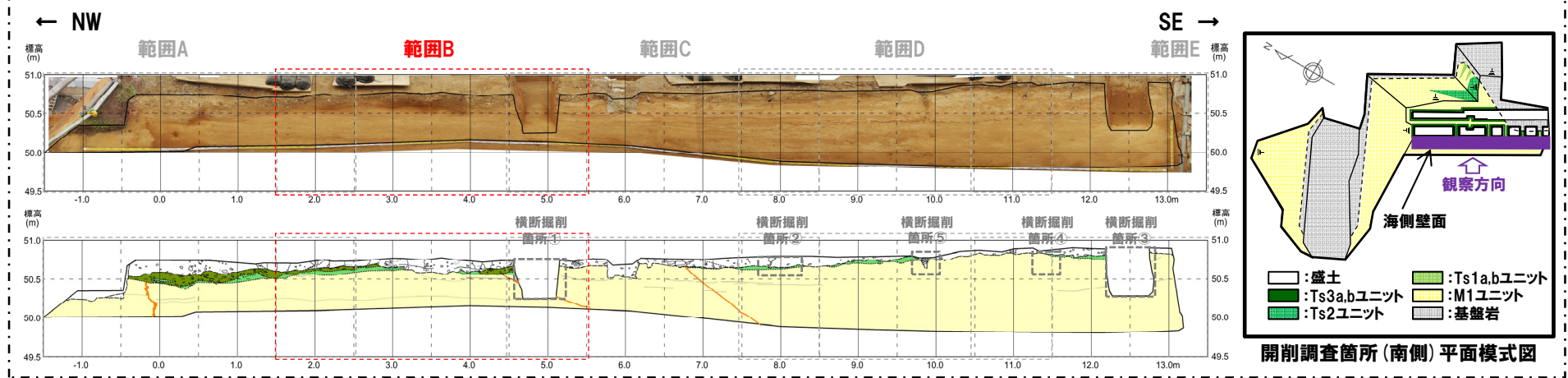


開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲A)

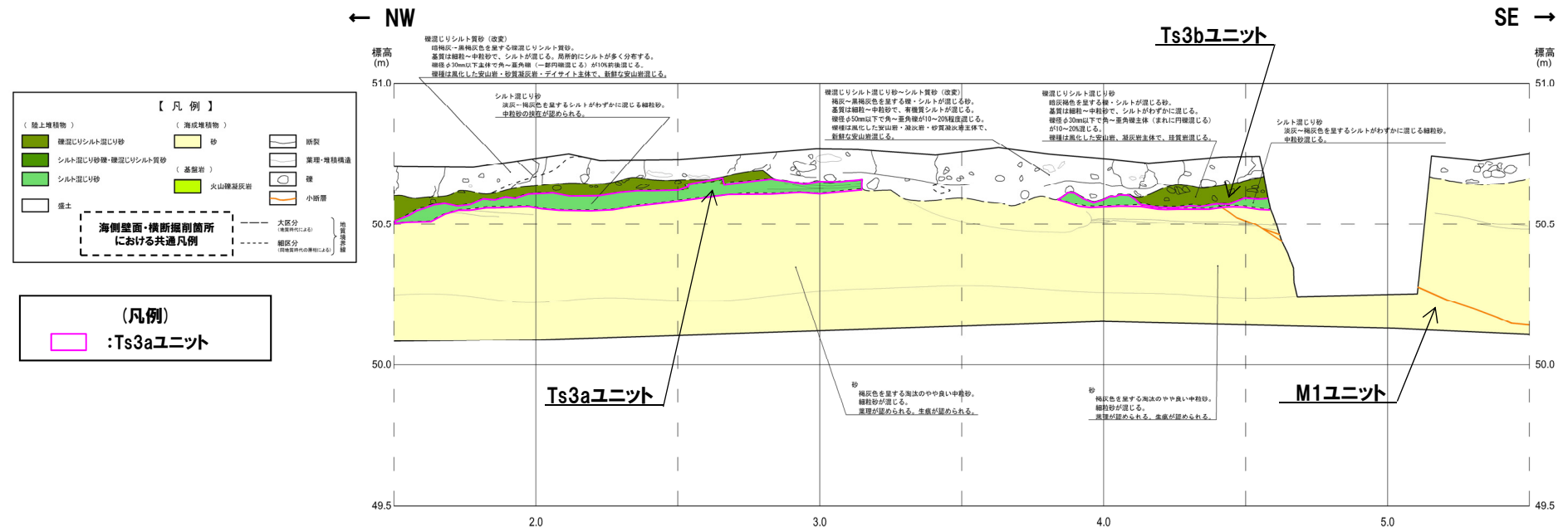
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 海側壁面 写真及びスケッチ (2/5)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



位置図

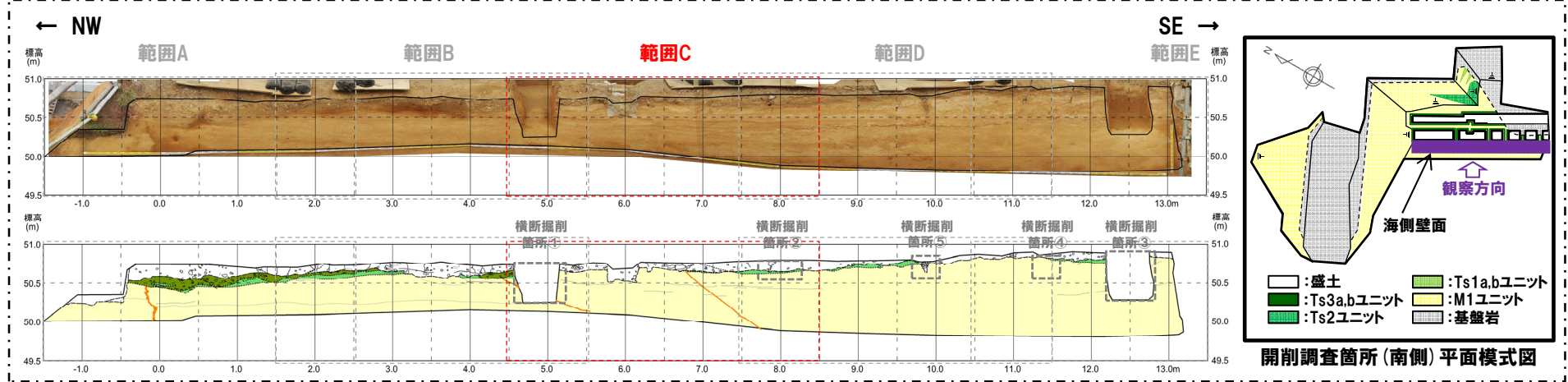


開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲B)

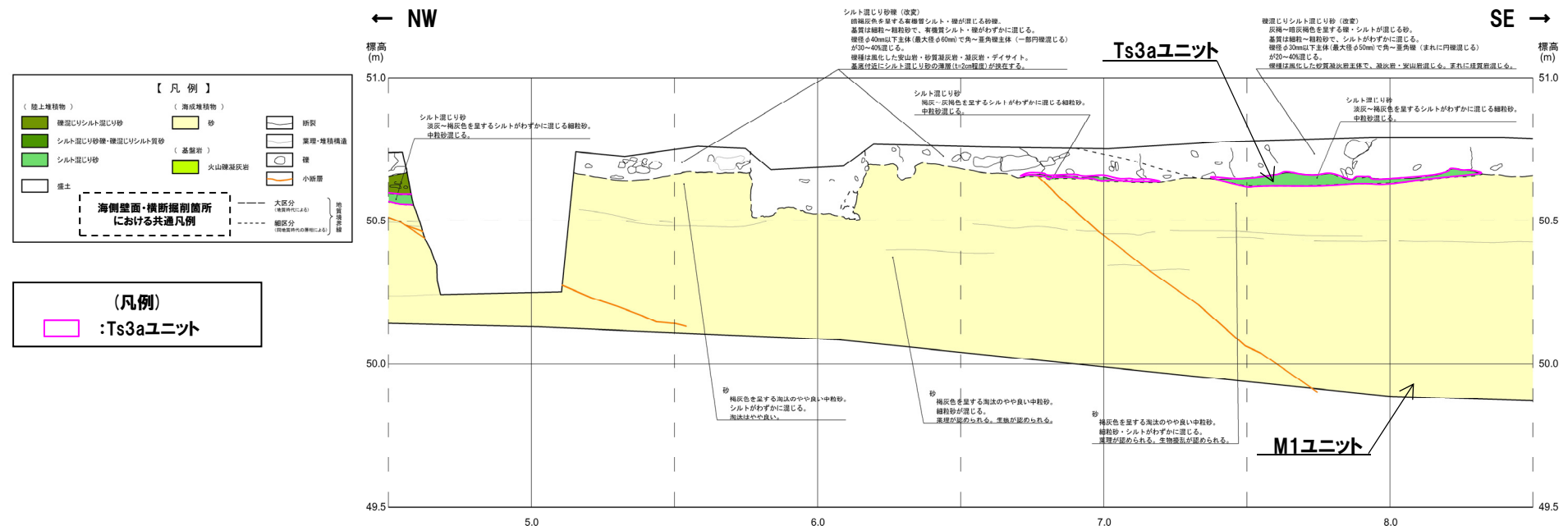
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 海側壁面 写真及びスケッチ (3/5)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



位置図

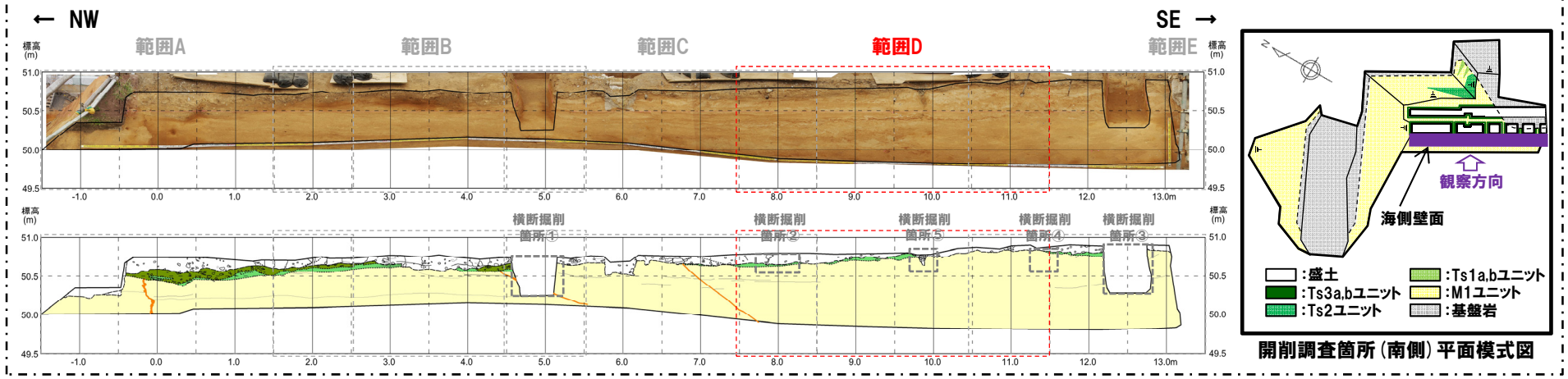


開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲C)

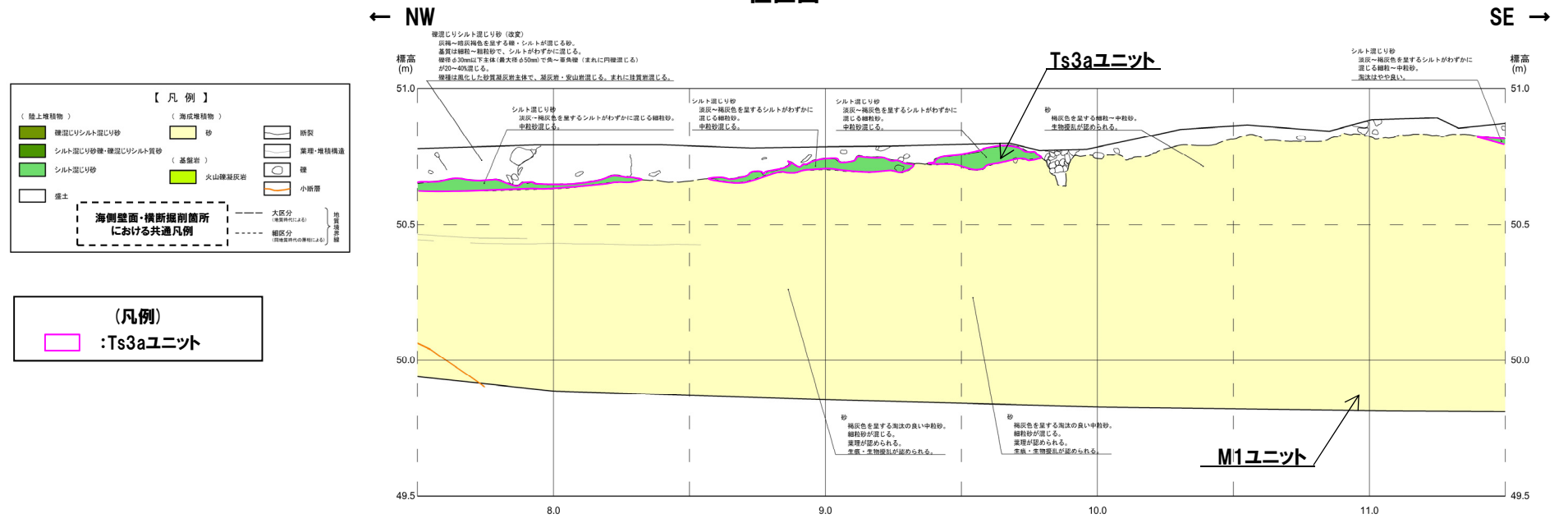
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 海側壁面 写真及びスケッチ (4/5)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



位置図

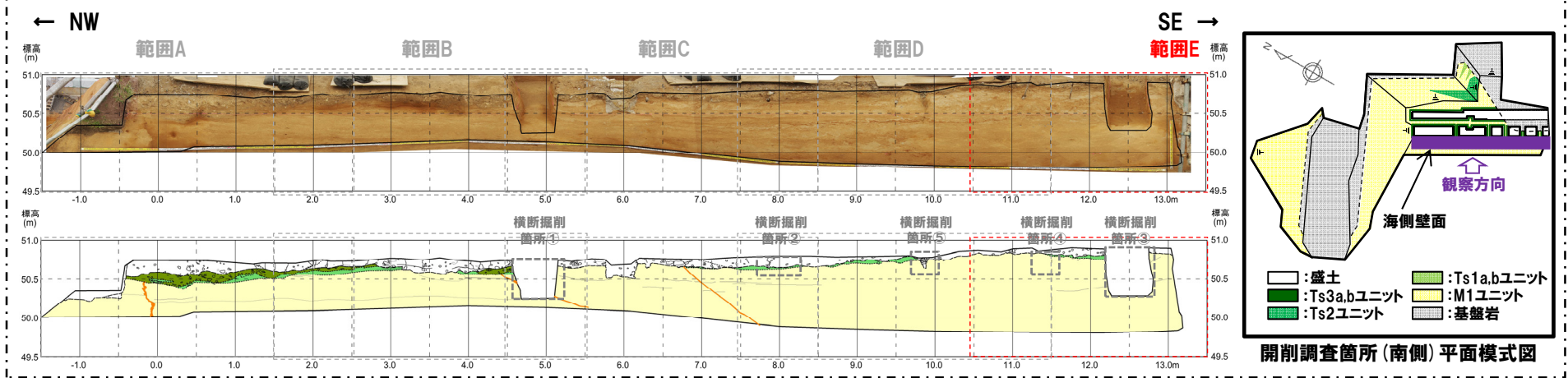


開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲D)

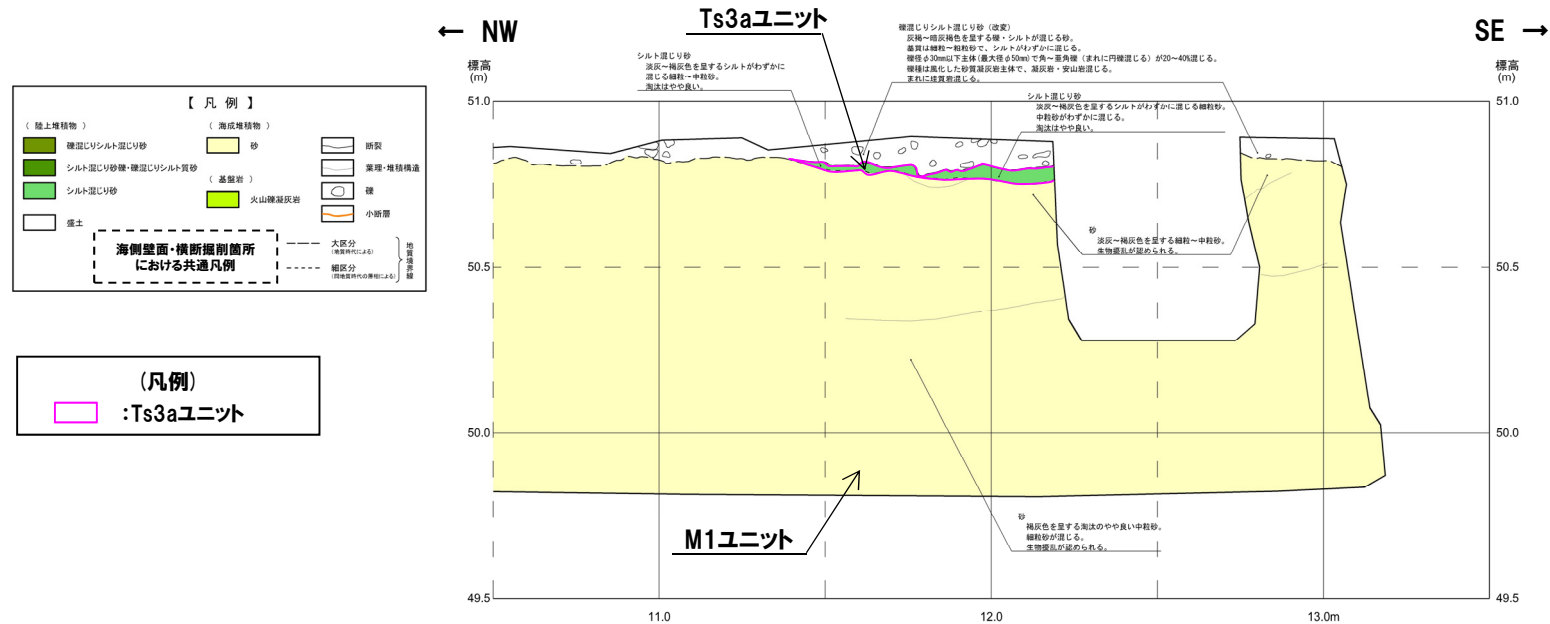
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 海側壁面 写真及びスケッチ (5/5)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



位置図

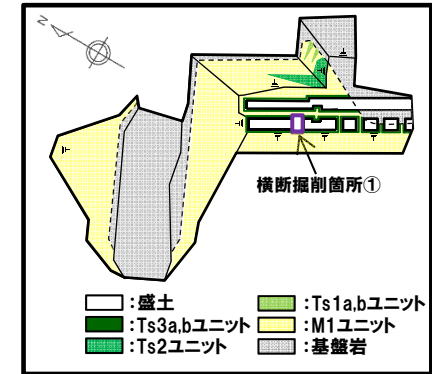
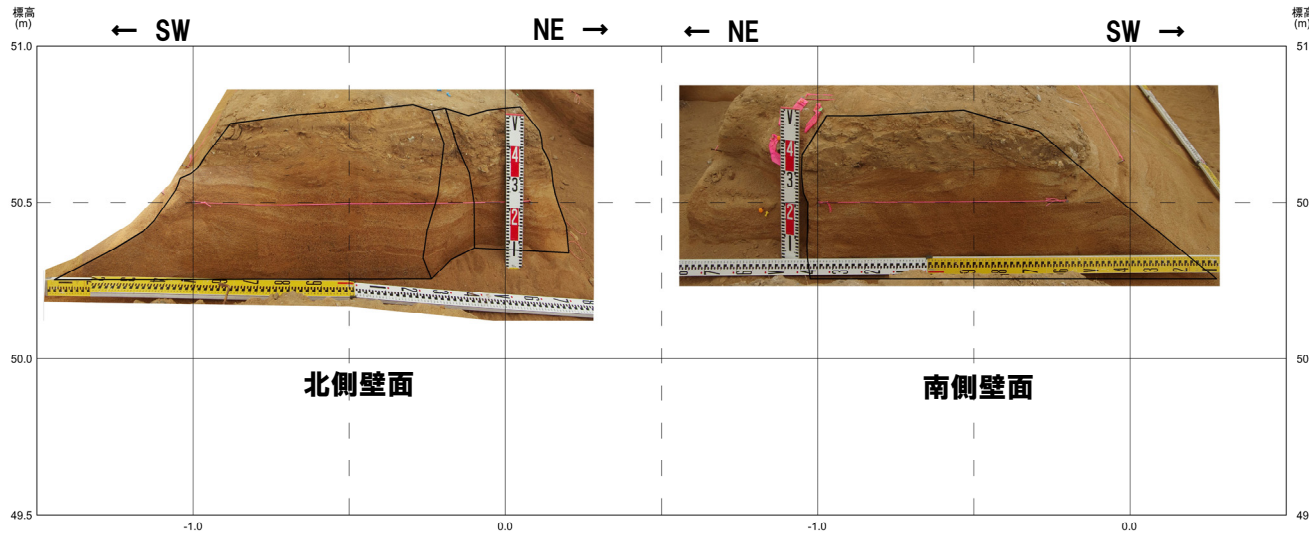


開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲E)

(1)地層区分及びユニット区分

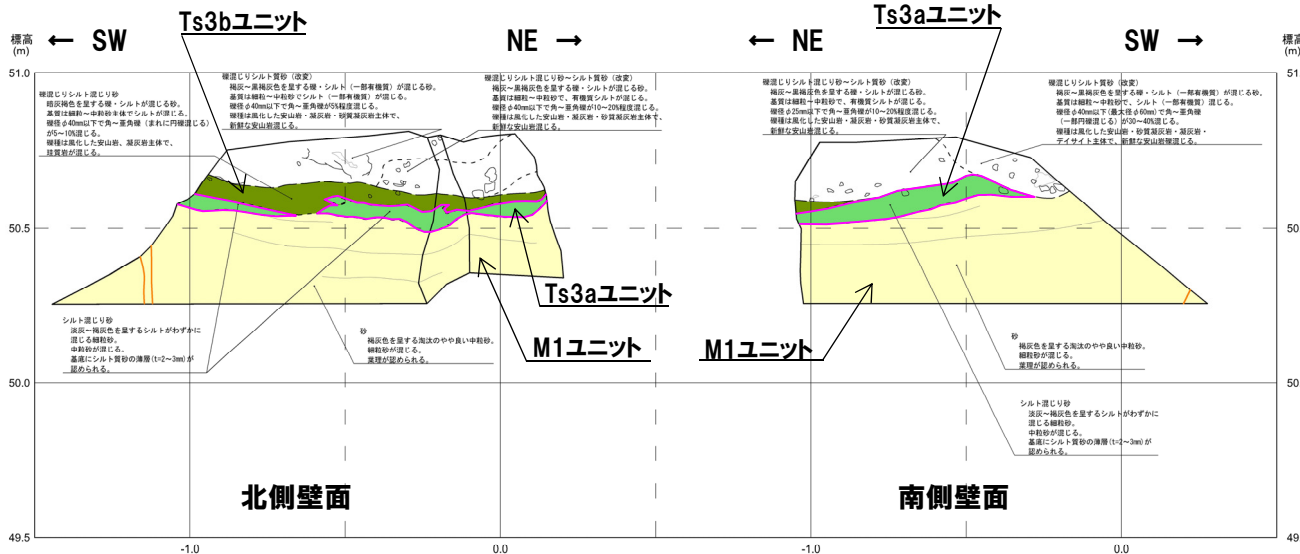
②-1 横断掘削箇所① 写真及びスケッチ

一部修正 (R2/8/7審査会合)

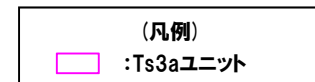
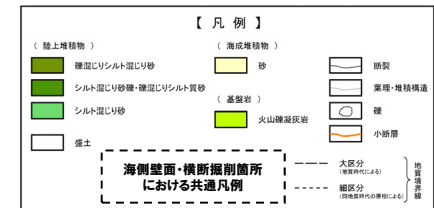


開削調査箇所(南側)平面模式図

開削調査箇所(南側)横断掘削箇所① 写真



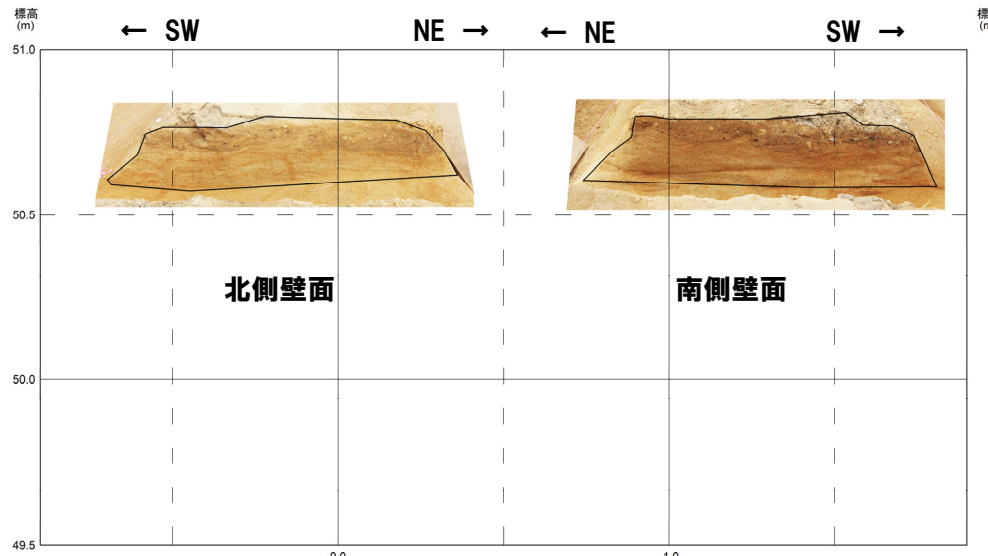
開削調査箇所(南側)横断掘削箇所① スケッチ



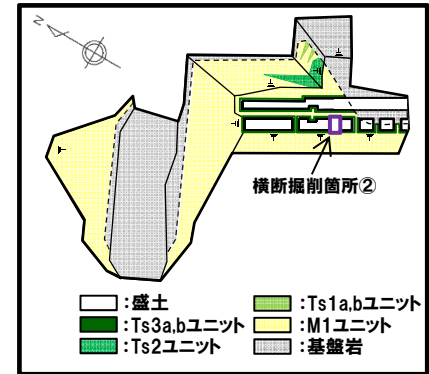
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 横断掘削箇所② 写真及びスケッチ

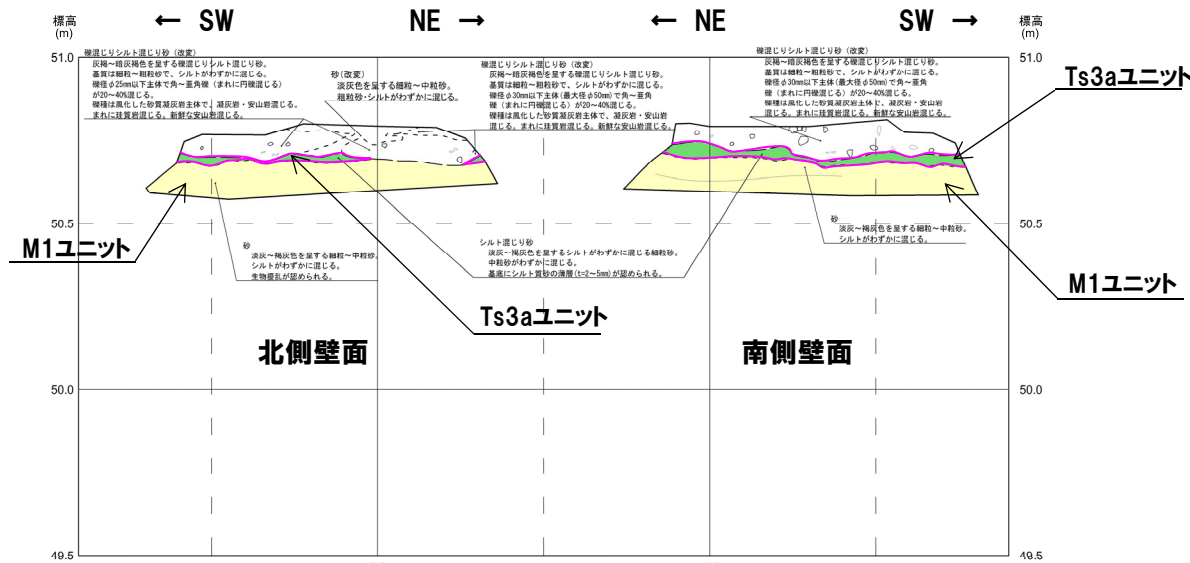
一部修正 (R2/8/7審査会合)



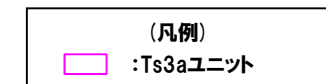
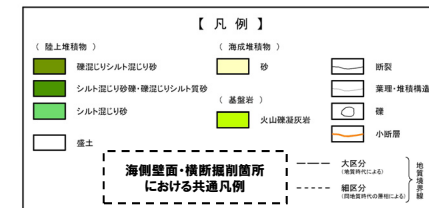
開削調査箇所(南側)横断掘削箇所② 写真



開削調査箇所(南側)平面模式図



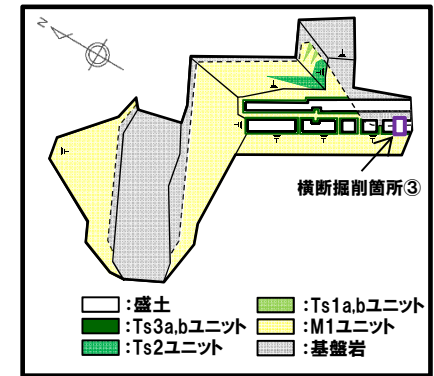
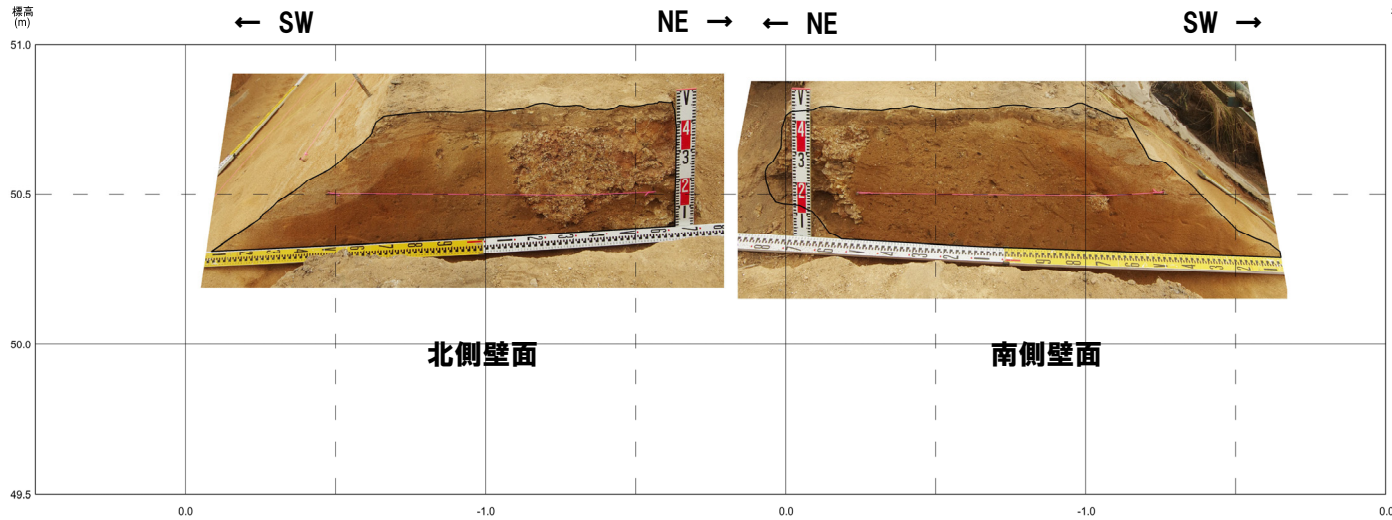
開削調査箇所(南側)横断掘削箇所② スケッチ



(1)地層区分及びユニット区分

②-1 横断掘削箇所③ 写真及びスケッチ

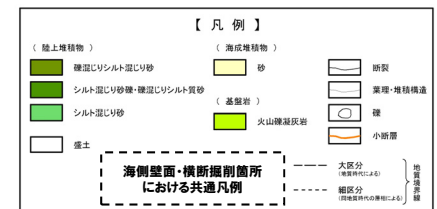
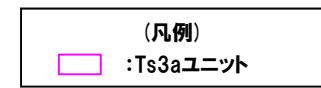
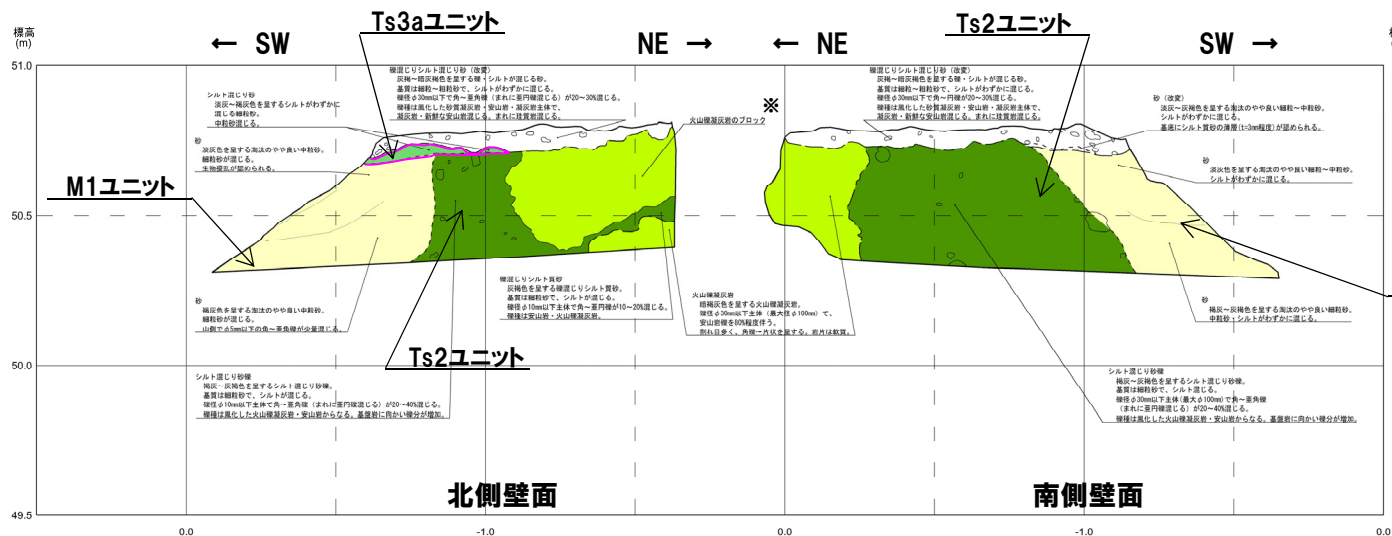
一部修正 (R2/8/7審査会合)



開削調査箇所(南側)平面模式図

※従来のスケッチで、火山礫凝灰岩のブロック (=堆積物)と記載した箇所については、露頭再観察の結果、その一部は、シルト質の層相を示す薄い挟在物であることから、基盤岩の一部と評価を見直すこととした(詳細はP342~P343参照)。

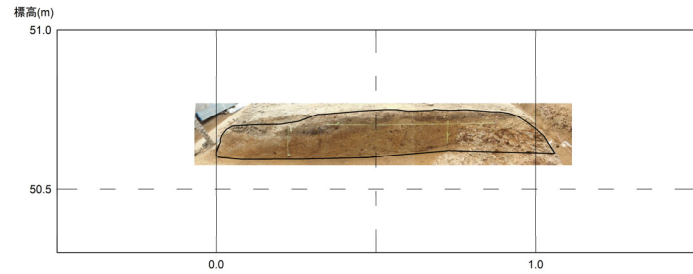
開削調査箇所(南側)横断掘削箇所③ 写真



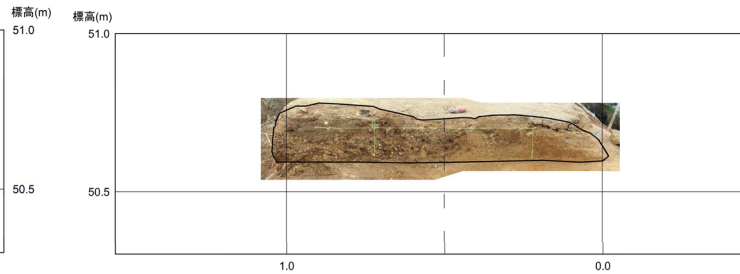
開削調査箇所(南側)横断掘削箇所③ スケッチ

(1)地層区分及びユニット区分

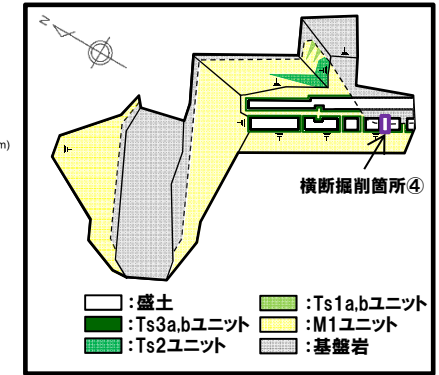
②-1 横断掘削箇所④ 写真及びスケッチ



北側壁面

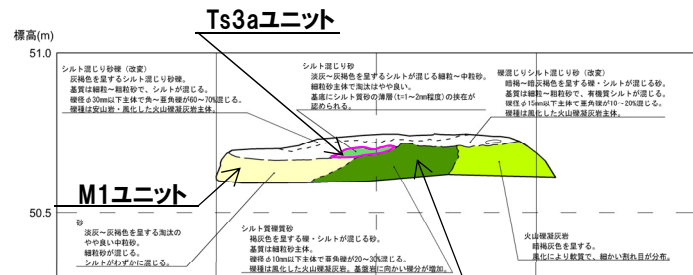


南側壁面

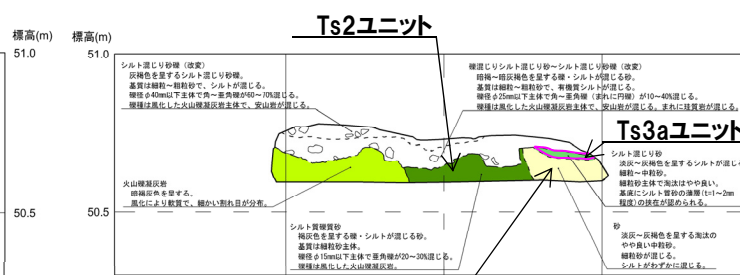


開削調査箇所(南側)平面模式図

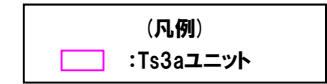
開削調査箇所(南側)横断掘削箇所④ 写真



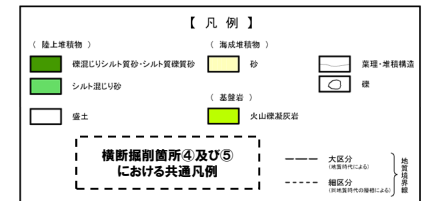
北側壁面



南側壁面



開削調査箇所(南側)横断掘削箇所④ スケッチ

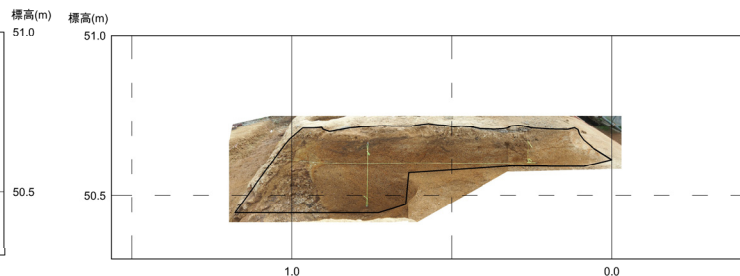


(1)地層区分及びユニット区分

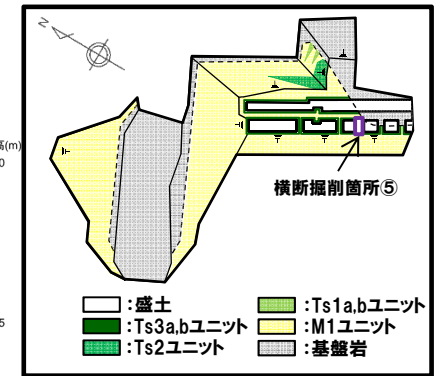
②-1 横断掘削箇所⑤ 写真及びスケッチ



北側壁面

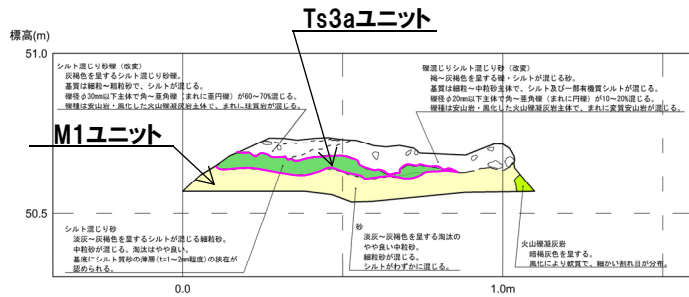


南側壁面

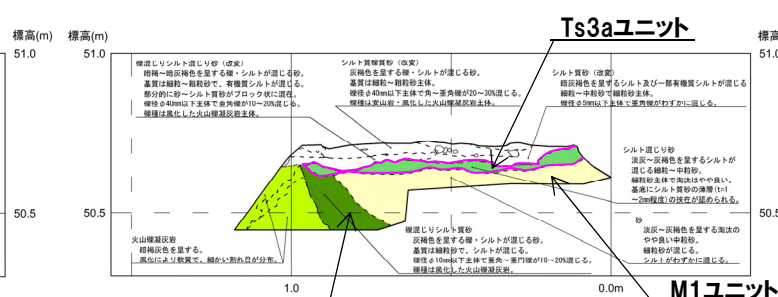


開削調査箇所(南側) 平面模式図

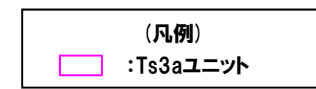
開削調査箇所(南側) 横断掘削箇所⑤ 写真



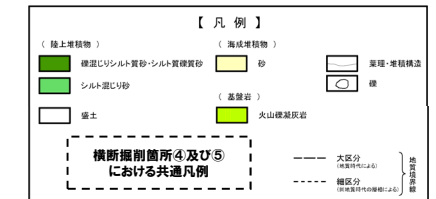
北側壁面



南側壁面



開削調査箇所(南側) 横断掘削箇所⑤ スケッチ



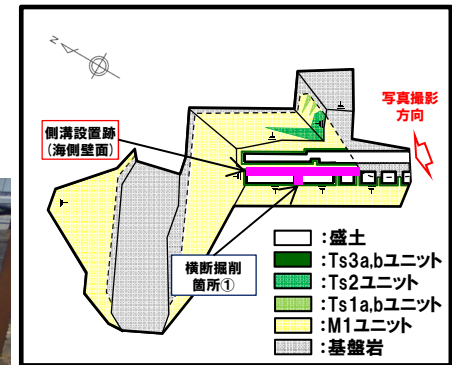
(1)地層区分及びユニット区分

②-2 南側壁面の背後法面天端付近 堆積相観察-実施箇所(1/2) -

一部修正 (R2/8/7審査会合)

はぎとり転写試料作成箇所①~④

露頭観察実施箇所①~③



開削調査箇所(南側)平面模式図

令和2年6月撮影

SE ↙

開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面天端付近 位置図(山側から海側を望む)

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 南側壁面の背後法面天端付近 堆積相観察-実施箇所(2/2) -

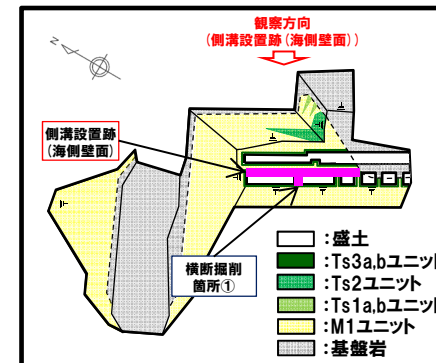
一部修正 (R2/8/7審査会合)

【凡例】調査項目

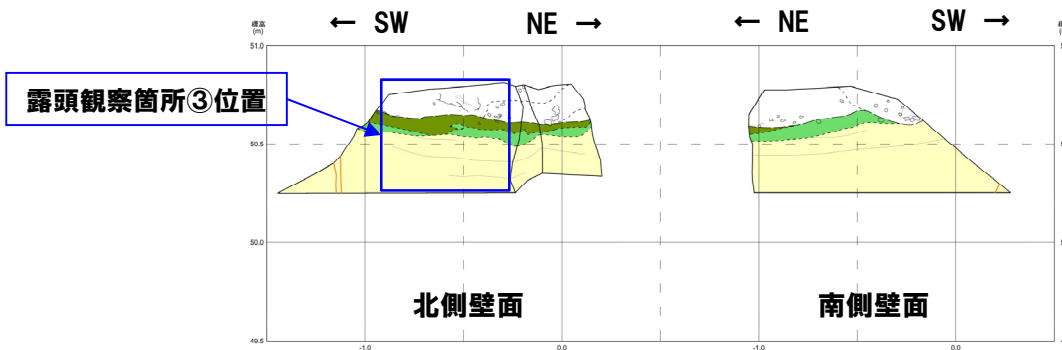
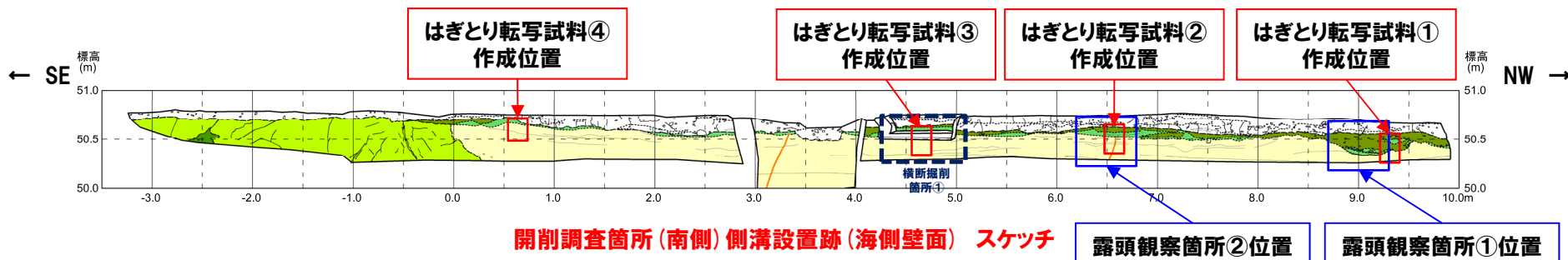
- はぎとり転写試料作成箇所
- 露頭観察実施箇所

【凡例】

- 陸上堆積物
 - 礫混じりシルト混じり砂・シルト混じり砂層
 - 礫混じりシルト質砂
 - シルト混じり砂・シルト質砂
 - シルト
 - 盛土
- 海成堆積物
 - 砂
 - 基盤岩
 - 火山噴出灰岩
- 断層
- 崖理・堆積構造
- 礫
- 小断層
- 大区分 (地質資料による)
- 細区分 (調査資料の観察による)



開削調査箇所(南側)平面模式図

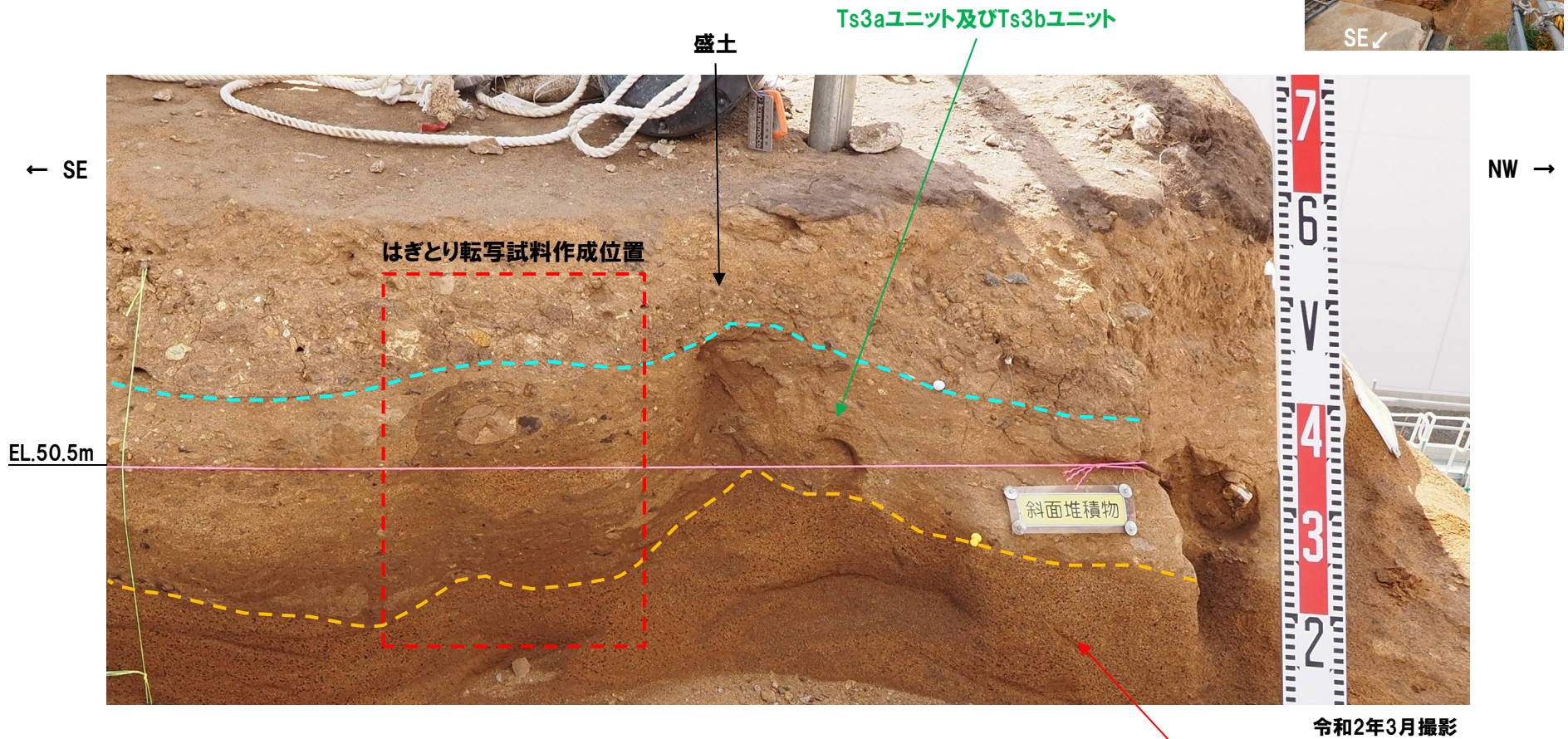


開削調査箇所(南側)横断掘削箇所①スケッチ

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料①(1/3)-

一部修正 (R2/8/7審査会合)



M1ユニット

前頁に示すスケッチにおける距離呈9m付近

拡大写真(はぎとり転写試料①作成位置)

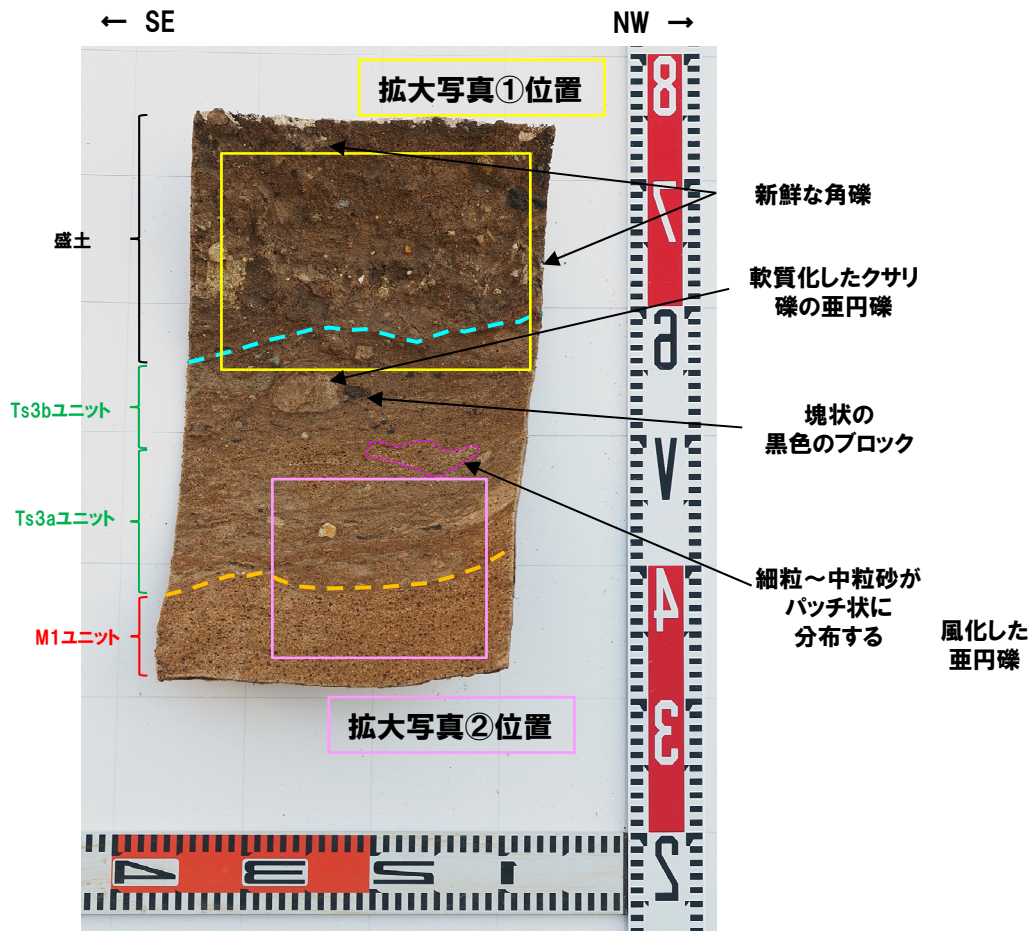
余白

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料①(2/3)-

一部修正(R2/8/7審査会合)

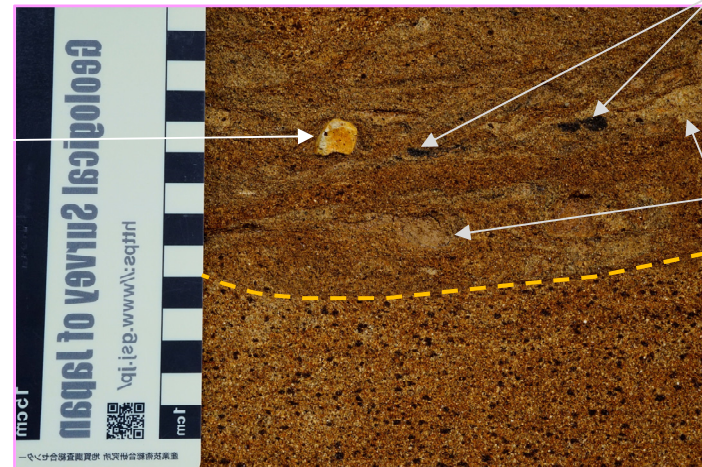
- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。
- Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に分布し、風化した亜円礫が点在する。また、シルトの偽礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。基底面は下位のM1ユニットを侵食している。
- Ts3bユニットは、暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、軟質化したクサリ礫の亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は、暗褐灰色を呈するシルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じる。



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料①(3/3) -

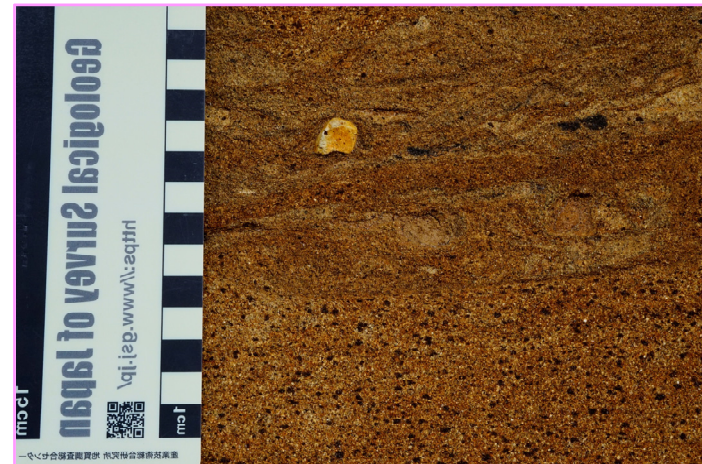
一部修正(R2/8/7審査会合)



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



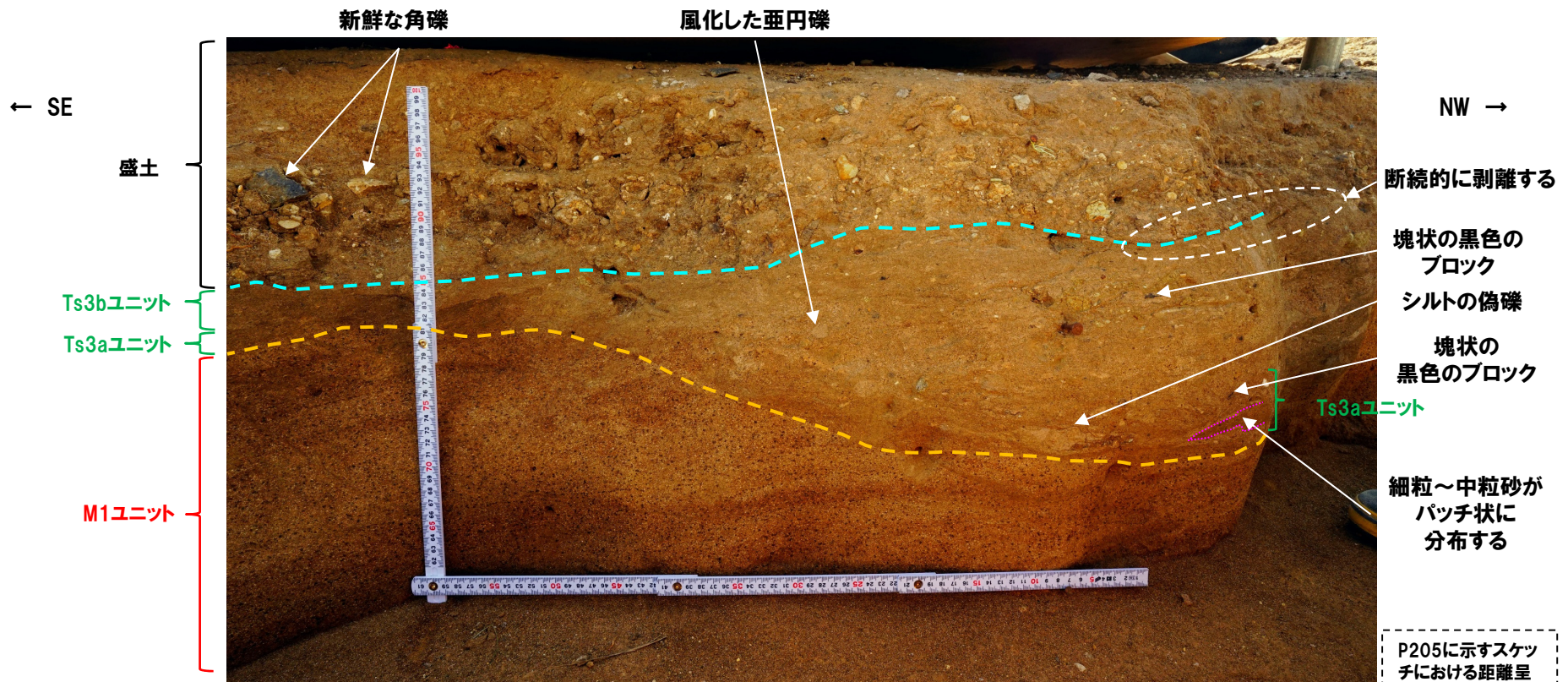
拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-露頭観察箇所①(1/2) -

一部修正 (R2/8/7審査会合)

- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。局所的に葉理が認められる。
- Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に分布する。また、シルトの偽礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。基底面は下位のM1ユニットを侵食している。
- Ts3bユニットは、暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は、暗褐灰色を呈するシルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じり、層相の差異によりTs3bユニットとの境界は明瞭であり、その境界は断続的に剥離する。



P205に示すスケッチにおける距離呈9m付近

令和2年6月撮影

拡大写真(観察箇所①位置(解釈線あり))

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-露頭観察箇所①(2/2) -

再掲(R2/8/7審査会合)



← SE



NW →

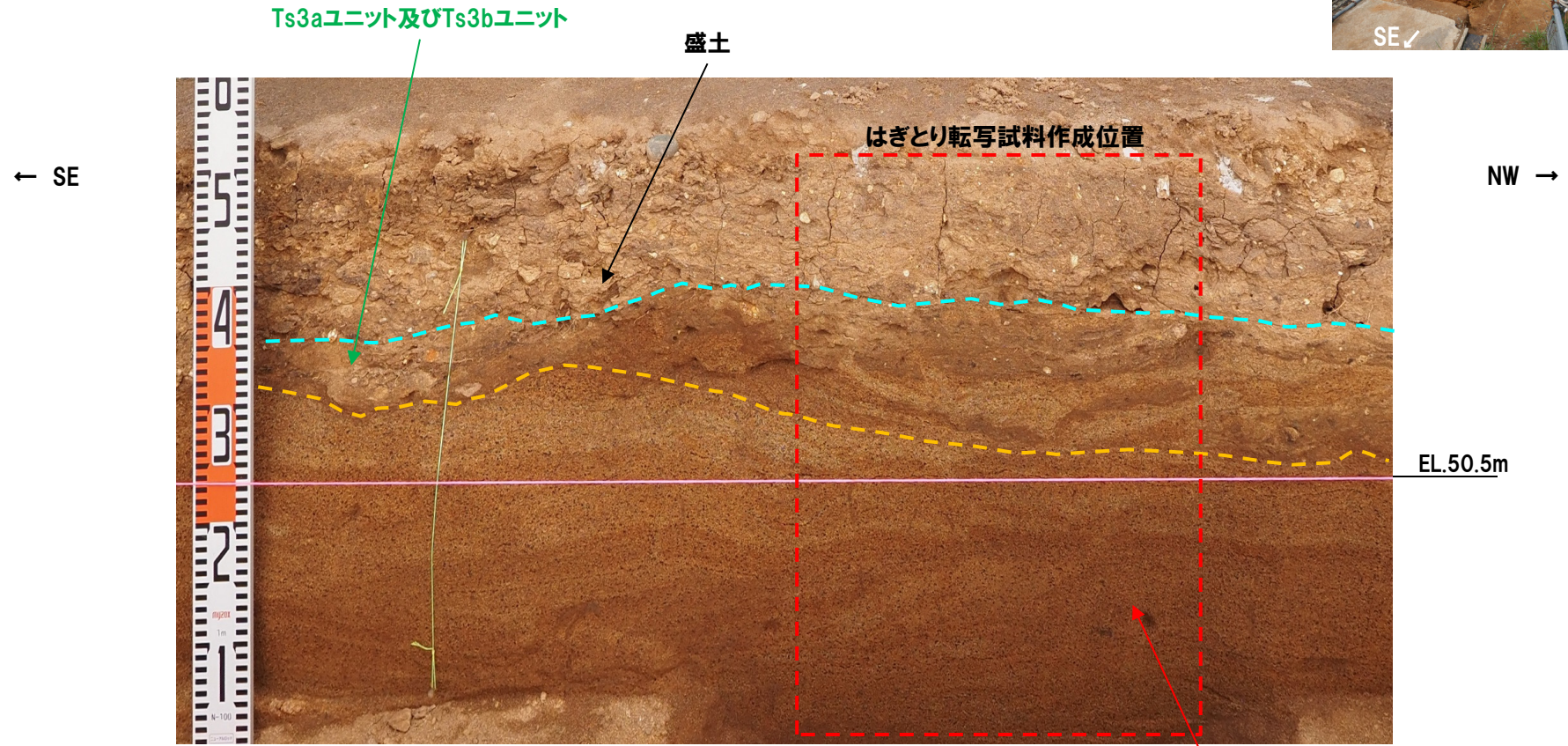
拡大写真(観察箇所①位置(解釈線なし))

令和2年6月撮影

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料②(1/3)-

一部修正 (R2/8/7審査会合)



令和2年3月撮影

M1ユニット

P205に示すスケッチにおける距離呈6.5m付近

拡大写真(はぎとり転写試料②作成位置)